JAAGA だより
日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association
発行：日米エアフォース友好協会
〒 160-0002
東京都新宿区四谷坂町 9 番 7 号
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
編集：JAAGA 事務局
印刷：東伸社
ホームページ：http://www.jaaga.jp/
i

井筒会長就任挨拶

Remarks by the new President
Gen (Ret) Shunji Izutsu, 36th Chief of Staff, Air Self-Defense Force

皆様こんにちは。

この度、令和 8 年度（2026 年度）総会において会員皆様方のご承認を受け、日米エアフォース友好協会（JAAGA）の第 14 代会長に就任いたしました井筒俊司です。

JAAGA は、平成 8 年（1996 年）の創設以来、航空自衛隊の OB 会員および賛同される会員の方々で構成する組織として、日米空軍種間における一層の協力と相互理解の促進に寄与すべく各種活動を行って参りました。

JAAGA 設立趣旨のとおり、冷戦終焉後の日米関係を危惧し、航空自衛隊と米空軍とで築き上げられた強い絆の下、両軍との相互理解及び友好親善の増進の架け橋となり、日米両国の信頼関係の向上に貢献することを目指し、活動を継続して参りました。冷戦終焉後の激動の時代にあって、両国空軍、そして同盟関係は揺るぎないものへと進化したことは周知の事実であり、当会がその一翼を担ってきたと自負するものです。これまでの 30 年間を振り返る時、先達方の慧眼に感服するとともに、活動を支えてこられた会員の皆様、多大な支援を頂戴した関係者の皆様には心からの敬意と感謝を表したいと存じます。

来春、航空自衛隊は航空宇宙自衛隊へと進化を遂



げます。当会は、日米空軍・宇宙軍種間の協力や連携が少しでも円滑に進むよう、引き続き現役米空軍人、米宇宙軍人、航空宇宙自衛官の支援を行い、今後も日米両国の関係強化に寄与する活動に尽力する所存ですので、会員皆様には、これまで同様、各種活動への積極的な参画を、また、関係各位には引き続きご支援下さるようお願い申し上げます。

令和 8 年 6 月 1 日
JAAGA 会長　　井筒　俊司

～　だより 第 70 号 目次　～

井筒会長就任挨拶…… 1
JAAGA 会長挨拶 …… 2
JAAGA30 周年記念ご寄稿 …… 3
JAAGA30 周年記念講演会 …… 13
JAAGA30 周年記念懇親会 …… 16
JAAGA 元会長ご寄稿 …… 21
令和 7 年度日米優秀隊員表彰 …… 24
フィールド大将訪日…… 29
嘉手納基地研修…… 30
支部だより（横田 AFB、三沢 AFB）…… 32
令和 8 年度 JAAGA 事業計画 …… 37
令和 8 年度役員及び退任役員 …… 37
会員募集、新入会員紹介…… 38
賛助会員の皆様へ…… 39
投稿募集、JAAGA グッズ紹介 …… 40

祝

JAAGA 創設 30 周年記念特集号

Special feature articles on the 30th Anniversary

JAAGA 会長挨拶　井筒 俊司



JAAGA 創設 30 周年を迎え、JAAGA の活動を支援していただいた関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。JAAGA が創設されたのは、1996 年 7 月 5 日のことでした。当時は冷戦が終結し、船橋洋一氏の著書、「同盟漂流」が描いたような、冷戦終結後の日米同盟の先行きに不安が広がっている時代でした。当時のことを少しばかり思い出してみたいと思います。

1994 年には北朝鮮の核開発をめぐる第一次北朝鮮核危機、1996 年には、台湾海峡をめぐる緊張に対し、米国が 2 個空母戦闘群を派遣した台湾海峡危機が生起しています。米ソ冷戦に抑えられていた地域紛争が噴出し始めた時期といえます。1991 年の湾岸戦争も、中東での地域紛争とはいえ、ここではステルス、精密誘導爆弾、データリンクによるエア・パワーの勝利ともいわれました。しかしながら、その後のボスニア・ヘルツェゴビナ紛争では、民族浄化に象徴される敵味方がモザイク状に入り乱れる状況において、エア・パワーの限界も指摘されています。冷戦終結の一方、地域紛争の頻発、そしてエア・パワーの光と影という、非常に不安定で先行きの見通せない時代でした。

当時の日米関係にあって、冷戦終焉後の国際環境や日米経済関係の変化に伴い、両国の安全保障関係が相対的に薄くなったとの見方が広がっていました。更に、沖縄で発生した問題に対する国民の反応が、在日米軍人やその家族の士気に大きな影響を及ぼしつつあることも懸念されていました。そのような時代にあって、日米の相互理解と信頼関係を支えようとの思いから、JAAGA を創設された先輩方の慧眼と熱意に、あらためて深い敬意と感謝を申し上げます。

JAAGA の活動は、太平洋空軍司令官や第 5 空軍司令官の交代式への参加といったハイレベルなものから、日米共同演習等の激励、会員の基地研修、日米優秀隊員の表彰、各種懇親への参加等、様々なレベルでの人的交流まで及びます。特に基地研修は JAAGA の活動でも重要なものです。これを受け入れ、おもてなしをしてくれる米空軍に心から感謝を申し上げます。ある在日米軍司令官に、JAAGA の基地研修等へのご理解とご協力をお願いしたところ、ご自身がかつての在日米軍勤務時、JAAGA の研修の接遇をしたことがあるので是非とも協力したいという、心強い言葉をいただいたこともありました。

その JAAGA も現在、400 名を超える会員を擁すようになりました。不易流行、創設時から変わらない活動（不易）から、時代の流れに応じ変わっていく活動（流行）まで、30 周年は一つの分岐点と感じています。空自 OB・OG 会員に加え、民間の賛助会員の方々にも幅広く活動にご参加いただくと同時に、30 年前に JAAGA を創設された先輩方が肌で感じた危機感と、その危機感を日米の関係強化への行動へとつなげた先人の思い、そして人と人との絆を私たちは忘れてはなりません。現在私たちは、コロナ禍での活動の制限を経験し、またコンプライアンスにも配意しなければなりません。これらは我々の活動を妨げるものではなく、効率的に、より良くするための課題と思います。私自身、会長を拝命して間もないですが、皆様とともに、JAAGA の発展に尽力していく所存であります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

航空幕僚長
空将　森田 雄博
Gen Takehiro Morita/
Chief of Staff, Air Self-Defense Force



「日米エアフォース友好協会創設30周年に寄せて」

日米エアフォース友好協会（JAAGA）が創設30周年を迎えられましたことに対し、心からお祝いを申し上げます。また、井筒会長をはじめ、名誉会員である歴代第5空軍司令官の皆様、並びにこれまで協会の活動に携わってこられた日米すべての会員の皆様におかれましては、共同訓練に臨む隊員への激励や文化交流支援など、多大なるご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

貴協会は、平成8年、航空自衛隊と米空軍相互のより良い信頼関係の構築を目的として、空自OB有志により創設されたと承知しております。その後、貴協会の活動は年を追うごとに充実し、創設から30年を迎えた現在では、「日米現役隊員に対する支援」、「米空軍軍人の日本研修支援」、「現役を交えた日米退役軍人による相互交流」、「日米同盟に関する理解促進のための広報活動」など、多岐にわたる事業を展開されています。我々現役自衛官も、貴協会が企画される各種行事を通じ、米空軍の方々との交流を深めており、私をはじめ、隊員の中には家族ぐるみでの親交を育んでいる者もおります。年々、日米隊員相互の絆がより強固なものとなっていることを実感しており、誠に喜ばしい限りであります。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく、複雑な様相を呈しています。このような情勢の中、航空自衛隊は本年度中に「航空宇宙自衛隊」へと改編されることとなりました。空及び宇宙領域において、国民の生命と平和な暮らし、そして我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くという使命を果たすべく、その名にふさわしい組織となるよう、更なる能力の向上に努めてまいる所存です。

また、本年は米国にとって建国250周年という大きな節目の年であるとともに、在日米軍・米空軍にとっても重要な変革の年と言えます。本年3月、横田基地において実施された第5空軍指揮権交代式において、それまで在日米軍司令官が兼任していた第5空軍司令官が専任化されました。これは、インド太平洋地域の平和と安定にとって日米同盟が重要であること、さらには日米空軍種間の連携が戦略的意義を有することの証左であると認識しております。

このような日米それぞれの変革は、両国の能力向上と連携の強化につながり、その結果として同盟全体の実効性を一層高め、日米同盟を更なる高みへと引き上げていくものと認識しております。そして、両国の紐帯をより強固なものにするためには、共同訓練を通じた相互運用性の更なる向上といった、目に見える取組に加え、相互の友情や信頼、尊敬といった無形の要素も極めて重要であり、こうした無形の要素を醸成・深化する上で、貴協会の果たしてこられた役割は極めて大きいものがあると認識しております。我々と致しましても、引き続き日米共同の実効性の向上に向けて不断の努力を重ねてまいります。貴協会におかれましては、今後とも航空自衛隊と米空軍との架け橋として、両組織の一層の融和と発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝並びにご活躍を祈念申し上げ、日米エアフォース友好協会創設30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

第5空軍司令官
ジョエル・L・キャリー空軍中将
Lt Gen Joel Carey/Commander of
Fifth Air Force, Yokota Air Base, Japan



JAAGA創設30周年をお祝い申し上げます。

日米のパートナーシップや能力はこの30年で拡大し、重要となってきたことを実感しておりますとともに、30年というのは自分の日本での軍歴とも重なる期間になります。JAAGAが始動したのと同時期に私の日本でのキャリアが始まったことになります。

私は任官後の早い時期から日米同盟におけるパートナーシップやフレンドシップの重要性を学び、認識してまいりました。我々は様々な任務を通じて、そうした関係を具現してきましたが、とても困難な状況に対して日米でともに正面から立ち向かったハードな出来事もありました。

我々の置かれている現在の安全保障環境については、とても厳しいことはご承知のとおりですが、こうした状況は今後も変わることなく、益々厳しくなっていくことと容易に想定されます。故に、我々の関係、我々の「鉄の絆」は今まで以上に重要性を増していくこととなるでしょう。

退役した方々が現役時代に植えた様々な種が、今の現役の世代に進化し、また実を結んでいることを実感していることと思います。こうした進化は、これからも続けていくこととなるでしょう。日本における指揮統制（C2）の進化のみならず、また新しいアセット、例えば第 5 世代戦闘機、KC-46A 空中給油機、IAMD などについても、これまで数か月～数年のレベルで大きく進展してきましたし、これからも更に進展していくことでしょう。

しかし現状で満足することなく、これから更に進歩、進化していくことが求められると考えています。日米における統合の関係についても、次の段階に進めていく必要があると考えており、その重要性を如何に納得して進化させていくか、自分の上司や更にその上司にも具申していきたいと考えています。

第 5 空軍兵を代表して JAAGA30 周年を祝福いたします。

防衛大臣
小泉 進次郎
Shinjiro Koizumi/
Minister of Defense



「日米エアフォース友好協会創設 30 周年を祝して」

日米エアフォース友好協会創設 30 周年誠におめでとうございます。

長年にわたり日米同盟の発展に寄与されてこられた皆様が、このたび新たな節目を迎えられますことに、心よりお慶び申し上げます。

日米同盟は本年、75 周年を迎えました。かつて戦火を交えた両国が、今や世界で最も強固な同盟国、そして最も親密な友人となりました。

現在では、東は米国カリフォルニア州から西はインド洋西部アデン湾に至るまで、インド太平洋地域全体でともに活動し、地域の平和と安定に積極的に貢献しています。

空軍種間においても、貴協会より長年にわたり激励を賜っているコープ・ノースや、RED FLAG ALASKA、オペレーション・クリスマス・ドロップへの参加に加え、近年では、海上自衛隊、航空自衛隊と米空軍との共同による捜索救助訓練「RESCUE FLAG IWAKUNI」や「RESCUE FLAG OKINAWA」を実施するなど、協力の裾野は着実に拡大しています。

このように航空自衛隊、ひいては防衛省・自衛隊が米軍と一層緊密に連携できますのも、貴協会からの 30 年という長きにわたる御支援の賜物です。これまでのご尽力に敬意を表するとともに深く御礼申し上げます。

この 30 年の間、国際社会及び我が国を取り巻く安全保障は大きく、かつ急速に変化してまいりました。

とりわけ、我が国が戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、同盟の即応性や相互運用性の向上に向けた協力は、一層重要なものとなっています。こうした中、防衛省・自衛隊は、令和 7 年 3 月､統合作戦司令部（JJOC）を新設しました。これにより、防衛大臣の命令の下、同司令官が陸海空自衛隊の部隊を一元的に指揮することが可能となりました。この動きと時を同じくして、在日米軍においても統合軍司令部への機能強化が進められ、この一環として JJOC との連携を担う新たな体制が構築されるなど、日米間の緊密な連絡・調整は平素より着実に進化しています。

さらに、「新しい戦い方」の出現など、安全保障の領域が様々な分野で加速度的に広がっています。とりわけ「戦い方」の変化への対応は、本年中の三文書の改定に向けた大きなテーマの一つです。四方を海に囲まれているという地理的特性など、我が国が置かれた戦略環境を踏まえ、我が国独自の戦略を構築し、「新しい守り方」を実現するための方策について、全力で検討を進めています。中でも、宇宙空間の利用は、国民生活の基盤そのものであるとともに、陸・海・空を含むオールドメインの軍事作戦上の指揮統制・情報収集基盤の中核をなしており、その能力強化は、各国に共通する喫緊の課題です。防衛省・自衛隊においても、防衛力の抜本的強化、そして「変革」をこれまでにないスピード感で進める中で、宇宙作戦団の新

編や、本年度中には航空自衛隊の「航空宇宙自衛隊」への改編などを通じ、宇宙領域への対応を強化しています。こうした新たな領域においても、日米間の連携を質・量ともに高めていくことが不可欠です。

その上で、私自身も、昨年 10 月の防衛大臣就任以来、ヘグセス戦争長官と幾度となく会談を重ね、率直に言葉を交わせる信頼関係を築いてきました。これら一連の取組は、日米同盟の抑止力及び対処力を更に強化し、我が国のみならずインド太平洋地域、ひいては国際社会の安定にも資するものです。今後とも、防衛力の抜本的強化と日米同盟の深化を車の両輪として、平和と繁栄を支える基盤をより強固なものとすべく、私自身も先頭に立って全力を尽くしてまいります。

一方、こうした取組の中核を担うのは、現場を支える「人」、すなわち自衛隊員にほかなりません。こうした考えの下、これまで自衛官の処遇の改善、生活・勤務環境の改善等に邁進してきました。一方、募集環境が厳しさを増す中、自衛隊員という職業を選択し続けていただくためには、現職隊員の処遇改善に加え、退職した隊員や御家族の皆様も誇りをもって、胸を張って人生を全うできる環境を構築していくことが重要です。諸外国の例も踏まえつつ、我が国も、国を守るという崇高な任務を全うした自衛隊員に対して、また、隊員を平素から支える御家族の皆様に対して報いることができるよう、支援や体制の強化を、いわば「退職自衛隊員・家族支援庁」のような組織を作ることも含め、検討していく必要があると考えています。引き続き、防衛大臣として隊員一人ひとりとその御家族を守り抜くとの決意の下、自衛官の社会的地位の向上のための取組を進めてまいります。

貴協会におかれましても、航空自衛隊と米軍との架け橋として、今後ともより一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、貴協会の今後益々の御発展と、井筒会長を始め会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



統合幕僚長
空将　内倉 浩昭
Gen Hiroaki Uchikura/
Chief of Staff, Joint Staff



日米エアフォース友好協会（JAAGA）の創設 30 周年に際し、心よりお祝い申し上げます。井筒会長をはじめ歴代会長の皆様、歴代第 5 空軍司令官の皆様、並びに貴協会の活動に携わってこられた全ての会員の皆様に、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。創設以来、脈々と受け継がれてきた熱意と創意工夫あふれる様々な活動を通じて、貴協会は航空自衛隊と米空軍双方にとって欠くことのできない存在であることを示してこられました。

私自身、航空総隊司令官、航空幕僚長、そして統合幕僚長としての歩みの中で、日米同盟の意義と重みを幾度となく実感してまいりました。そのたびに、両国の信頼を静かに支え続けてこられた貴協会の存在に励まされ、勇気づけられてきたことを忘れることはできません。この機会に、改めて心から御礼申し上げます。

今日、グローバルなパワーバランスが大きく変化し、新たな危機の時代に突入しつつある安全保障環境の下、いずれの国も自国のみで平和と安全を守ることは困難となっています。我が国の防衛はもとより、インド太平洋地域の平和と安定のためにも、日米同盟の抑止力・対処力を一層高めることが急務です。さらに、統合運用が基本となった現在、各領域を横断する高度な連携に加え、AI を活用した迅速かつ的確な意思決定も求められる時代となりました。ここで、私が最も強調したいことを申し上げます。

日米共同運用、そして統合運用は、各自衛隊と米軍各軍種が有する高度な能力と、相互運用性・相互互換性・相互補完性という堅固な紐帯によって支えられています。その能力を維持・向上させるためには、不断の訓練・演習が欠かせません。

しかし、真に強固な紐帯とは、単に装備やシステムをつなぐことだけではありません。それを運用し整備する人と人との心のつながりであり、各幕僚長から現場の隊員に至るまで築かれる友情と信頼です。そして、その輪は現役だけでなく、退官・退役された方々や御家族にも広がっています。

世代を超えて友情を育み、それを未来へつないでいくことこそが、日米同盟を支える揺るぎない力になると私は信じています。

貴協会は、このかけがえのない人的基盤を築き、育み、未来へつないで来られました。その歩みは、航空自衛隊と米空軍との紐帯を支える大きな力であり、その役割はこれからの時代にこそ一層重要になるでしょう。

創設 30 周年という節目を迎えられた貴協会が、これからも航空自衛隊と米空軍との信頼強化のための取り組みを通じて日米同盟の進化に寄与されることを期待いたしますとともに、貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたします。

つばさ会会長
第 12 代 JAAGA 会長
杉山 良行
Gen (Ret) Yoshiyuki Sugiyama/
President of Tsubasa-Kai,
the 12th President of JAAGA



JAAGA30 周年寄稿

日米エアフォース友好協会（JAAGA）、創設 30 周年、おめでとうございます。

JAAGA はこれまで、つばさ会の付属組織として航空自衛隊と米空軍の相互理解、友好親善の増進に多大なる貢献をされてきました。

近年の安全保障環境は「冷戦後で最も厳しく複雑」と評されますが、そんな中で日米同盟は世界で最も重要な同盟の一つと評価されています。特にインド太平洋地域では安全保障の柱であり、そうした中で JAAGA は同盟にとって大きな役割を果たしてきましたが、これからもその活動を強化して欲しいと思います。

一方、これまで常識としてきた価値観を否定する動きが顕在化し、同盟軽視の動きなど長年培い育ててきた財産を自ら台無しにする動きが生まれています。同盟国である米国がそうした動きの一つになってしまっているとの危惧と懸念を禁じえませんが、日本にとって日米同盟が基軸であることは当面変わらないことから米国を引き留める努力、日本が米国にとって「重要で同盟を維持しなければならない国である」ことを行動で示していくことが今、重要であり必要だと思います。軍組織相互、軍人個人相互の交流は国同士の関係の基礎です。ここに JAAGA の活動の重要性を求めるとともに今後の活動の方向性を決めるポイントがあるのではないでしょうか。軍種の観点で見ると米空軍は既に空軍省の元に空軍とともに宇宙軍が創設されています。方や航空自衛隊は今年度、「航空宇宙自衛隊」になります。JAAGA は在日勤務を持つ米空軍将官を主体に特別会員を増やして来ましたが米宇宙軍将官がこれに加わることでこれまで以上に関係の厚みが増すとともに多様性も増加し、JAAGA の行う交流の重要性を更に増加させると思われます。また OB 組織には現役にはできない交流、意見交換、情報共有などを行う、ある意味「特権」があります。この特権を活かして現役の活動を補完する、所謂セカンドトラックの動きを強化することは新たな安全保障環境の中、日本の国益増進に貢献することが可能です。つばさ会としては米軍以外の同志国との OB 間の交流強化を模索しますが、JAAGA としても米空・宇宙軍との交流を中心に、あるいはそれを通じた他国との更なる交流の輪を広げることに期待したいと思います。

米空軍参謀総長
ケネス S. ウィルスバック空軍大将
Gen Kenneth S. Wilsbach/
Chief of Staff of the Air Force



Dear Members of JAAGA

On behalf of the United States Air Force, it is my distinct honor to extend heartfelt congratulations on the 30th anniversary of the Japan-America Air Force Goodwill Association. As an honorary member, it is a personal privilege to celebrate this milestone with you.

For three decades, JAAGA has been a foundation of the friendship between the Japan Air Self-Defense Force and the United States Air Force. Your dedication has forged bonds of trust and camaraderie in this alliance that are the cornerstone of peace, stability, and freedom in the Indo-Pacific. The personal relationships you have nurtured are what transform a strategic partnership into a true friendship.

As our cooperation expands into new domains, the spirit of goodwill cultivated by your organization is more critical than ever. I am confident that JAAGA will remain a guiding force for the next generation of Airmen.

Thank you for your enduring commitment to our shared vision.

Congratulations again on three decades of incredible success and profound friendship.

JAAGA の皆様へ

アメリカ空軍を代表して、日米エアフォース友好協会の 30 周年を心よりお祝い申し上げます。名誉会員として、この節目を皆様と共に祝うことができることを大変光栄に思います。

30 年間、JAAGA は航空自衛隊とアメリカ空軍の友情の基盤となってきました。皆様の献身がこの同盟における信頼と友情の絆を築き、インド太平洋における平和、安定、自由の礎となっています。皆様が育んできた個人的な関係こそが、戦略的パートナーシップを真の友情へと変えるものです。

私たちの協力が新たな領域に広がる中、皆様の組織が育んできた親善の精神はこれまで以上に重要です。JAAGA が次世代の航空自衛官にとっての指導的な力であり続けると確信しています。私たちの共有するビジョンへの皆様の揺るぎないコミットメントに感謝いたします。再度、素晴らしい成功と深い友情の 30 周年をお祝い申し上げます。

米太平洋空軍司令官
ケビン B. シュナイダー空軍大将
Gen Kevin B. Schneider/
Commander of U.S. Pacific Air Forces



Dear Members of JAAGA

It is my distinct honor to congratulate the Japan-America Air Force Goodwill Association on your 30th Anniversary.

Thirty years is a remarkable milestone. It marks three decades of friendship, partnership, and unwavering commitment to our shared vision of peace, security and prosperity in the Indo-Pacific. As Commander of Pacific Air Forces, I see the impact of your work every day.

The U.S.-Japan alliance remains the cornerstone of stability and security in the Indo-Pacific. That cornerstone is built on trust, mutual respect and enduring relationships. Those relationships are strengthened by organizations like JAAGA.

We are operating in a consequential era. The challenges to regional security are growing in complexity and scale. To preserve a free and open Indo-Pacific, our forces must maintain the highest levels of readiness and be prepared to respond at a moment's notice to any crisis. Yet we do not face these challenges alone.

Today, our alliance is more than important than ever. We are moving beyond bilateral cooperation, integrating with like-minded partners across the region, advancing Agile Combat Employment concepts and learning to operate together at greater scale and speed. Success in this environment demands our forces to be agile, integrated and completely unified in purpose.

True interoperability begins with our Airmen. Equipment and tactics are important, but our people are our greatest strategic advantage. JAAGA plays a vital role in strengthening the personal and professional bonds that connect our two forces.

When our Airmen stand shoulder to shoulder our collective strength is magnified. Together we deter aggression, preserve stability and demonstrate the power of an alliance built on shared values and unbreakable relationships.

I am deeply grateful for your enduring dedication to this alliance. Congratulations on three decades of extraordinary success.

JAAGA の皆様へ

日米エアフォース友好協会の 30 周年を心よりお祝い申し上げます。

30 年は素晴らしい節目であり、友好、パートナーシップ、そしてインド太平洋における平和、安全、繁栄という共通のビジョンに対する揺るぎないコミットメントの 30 年を示しています。太平洋空軍の司令官として、私はあなた方の活動の影響を日々実感しています。

米国と日本の同盟は、インド太平洋における安定と安全の礎です。その礎は、信頼、相互尊重、

そして持続的な関係の上に築かれています。これらの関係は JAAGA のような組織によって強化されています。

私たちは重要な時代に直面しています。地域の安全に対する課題は、ますます複雑化し、規模も大きくなっています。自由で開かれたインド太平洋を維持するために、私たちの部隊は最高度の即応態勢を維持し、危機に対して瞬時に対応できるように備えなければなりません。しかし、私たちはこれらの課題に一人で立ち向かっているわけではありません。

今日、私たちの同盟はこれまで以上に重要です。私たちは二国間協力を超え、地域全体で志を同じくするパートナーと統合し、「アジャイル・コンバット・エンプロイメント」の概念を進め、より大規模かつ迅速に、共同で運用する方法を学んでいます。この環境での成功は、私たちの部隊が機敏に統合され、目的において完全に統一されることを求めています。

真の相互運用性は私たちの空軍兵士から始まります。装備や戦術も重要ですが、私たちの人々こそが最大の戦略的優位性です。JAAGA は、私たちの２つの部隊を結ぶ個人的かつ専門的な絆を強化する上で重要な役割を果たしています。

私たちの空軍兵士が肩を並べるとき、私たちの集合的な力は増幅されます。共に、私たちは侵略を抑止し、安定を維持し、共有する価値観と壊れない関係に基づく同盟の力を示します。

この同盟に対するあなた方の揺るぎない献身に深く感謝いたします。30 年の並外れた成功をお祝い申し上げます。

元欧州米空軍司令官、
元在日米軍司令官
リチャード・E・ホーリー空軍大将
Gen (Ret) Richard E. Hawley/
Ret. Commander of U.S. Air Forces
Europe and Japan



Dear Members of JAAGA

The six years that my family and I served in Japan were among the most rewarding of our Air Force career. Our memories overflow with the many good times we experienced at Kadena with the 313th AD and the 18th TFW. Our subsequent assignment at Yokota, where I served as Commander of USF Japan and 5th AF, gave us a deeper appreciation for the rich culture of Japan and the quiet strength of its people.

I will always treasure the friendships extended to me by the leaders of the JSDF and JASDF with whom I served most closely. Mary Ellen also holds many fond memories of her time with their spouses. We were privileged to become acquainted with Adm and Mrs. Sakuma during the visit of Gen and Mrs. Colin Powel、Chairman of the Joint Chiefs of Staff. We still recall with a smile Adm Sakuma's lighthearted test of the no-smoking policy aboard Gen Powell's aircraft.

The many enjoyable moments we shared with Gen Suzuki and his wife, and with Lt Gen Ishikawa and his wife, are too numerous to recount. Suffice it to say that Gen Suzuki's warmth and infectious smile brightened every gathering. It was a privilege to see him again at my retirement ceremony. One of our most enduring memories of our time at Yokota is of Lt Gen Ishikawa's wife Yuki waving farewell as we proceeded down the ramp to board our flight back to the US. She was a very special lady. Although my interactions with Gen Ishizuka were fewer, one memory stands out. After returning from Kadena, where I flew regularly to maintain currency in the F-15, I learned that Gen Ishizuka was hosting a JASDF/USAF fighter pilots'gathering and that I was to assemble a group to represent 5th AF. The menu featured “Fugu”, and, mindful of its reputation, I inquired whether the chef was licensed to prepare it. He replied with great pride that he held licenses to drive and to fly, but not to prepare Fugu. Fortunately, we all lived to remember the occasion.

I am delighted to know that JAAGA has not only endured but has grown and prospered over these past three decades. JAAGA plays an important role in strengthening the enduring partnership between our nations and our Air Forces. Please accept my heartfelt congratulations and best wishes for many more years of success.

JAAGA の皆様へ

JAAGA の創設 30 周年を直接に祝うことができないことを残念に思います。私と家族が日本で過

ごした 6 年間は、私たちの空軍キャリアの中で最も充実したものでした。私たちの思い出は、313 航空団と第 18 戦術戦闘航空団での多くの楽しい時間で溢れています。その後の横田での任務では、私は在日米軍司令官及び第 5 空軍の司令官を務め、日本の豊かな文化とその人々の静かな強さへの理解を深めることができました。私は、最も密接に勤務した自衛隊および航空自衛隊の指導者たちからの友情を常に大切に思っています。メアリー・エレンも、特にスズキキヨコさんやイシカワユキさんなどとの時間に多くの楽しい思い出を持っています。私たちは、統合参謀本部議長コリン・パウエル将軍とその奥様への訪問中に、サクマ提督と奥様と知り合う特権を得ました。私たちは、パウエル将軍の航空機での禁煙方針を軽やかに試したサクマ提督のことを今でも笑顔で思い出します。スズキ空将とその奥様キヨコさん、イシカワ空将補とその奥様ユキさんとの楽しい瞬間は数え切れないほどありますが、スズキ空将の温かさと感染力のある笑顔は、すべての集まりを明るくしました。私の退官退職式で再び彼に会えたことは特権でした。横田での私たちの時間の中で最も心に残る思い出の一つは、私たちがアメリカに帰るために空港の搭乗口に向かう際に、イシカワユキさんが手を振って見送ってくれたことです。彼女はとても特別な方でした。イシヅカ空将との交流は少なかったものの、一つの思い出が際立っています。嘉手納から帰った後、私はイシヅカ空将が航空自衛隊とアメリカ空軍の戦闘機パイロットの集まりを主催していることを知り、第 5 空軍を代表するグループを編成するようと言われました。私たちには戦闘機パイロットが 2 人しかいなかったため、トム・ワスコウと私が 3 人の追加の将校を任命しました。メニューにはフグがあり、その評判を考慮して、シェフがフグを調理するライセンスを持っているかどうか尋ねました。彼は、車運転と飛行機のライセンスは持っているが、フグを調理するライセンスは持っていないと誇らしげに答えました。幸いにも、私たちは皆その場を生き延びて、思い出として残すことができました。JAAGA がこの 30 年間にわたって存続し、成長し繁栄していることを知り、嬉しく思います。JAAGA は、お互いの国と空軍の間の永続的なパートナーシップを強化する重要な役割を果たしています。心からの祝福と、さらなる成功のための最良の願いを受け入れてください。

元米統合参謀本部議長
元在日米軍司令官
リチャード B. マイヤーズ空軍大将
Gen (Ret) Richard B. Myers/
15th Chairman of the Joint Chiefs of Staff,
Ret Commander of U.S. Forces, Japan



Dear Members and friends of JAAGA

Please accept my warmest congratulations on the Japan-American Air Force Goodwill Association's 30th Anniversary. Reaching this milestone is a testament to the strength, dedication, and enduring spirit that have defined JAAGA since its founding.

It is especially meaningful to me because I had the privilege of serving as Commander of U.S. Forces Japan and Fifth Air Force when JAAGA was established. At its founding, we recognized the importance of building not only stronger military ties, but stronger and lasting personal relationships between our air forces — relationships built on trust, mutual respect, and shared purpose.

I regret that I will be able to attend the anniversary celebrations in person. Please know, however, that I join you in spirit as you commemorate this important occasion.

I am especially pleased to see that JAAGA remains strong, vibrant, and committed to its mission after three decades. The relationship between our two air forces remains as important today as ever — even more so — given the challenges posed by a rising China and an increasingly belligerent North Korea. Strong partnerships, close cooperation, and enduring friendships continue to be essential to maintaining peace, stability, and security in the Indo-Pacific region.

As you celebrate this remarkable anniversary, please accept my thanks for all that JAAGA has accomplished over the past thirty years and my best wishes for continued success in the years ahead. I also look forward to welcoming JAAGA representatives this fall in Washington, D.C. With warm regards and congratulations again.

JAAGA のメンバーと友人の皆様へ

日米エアフォース友好協会の 30 周年を心より

お祝い申し上げます。この節目を迎えることは、JAAGA が創設以来持ち続けてきた強さ、献身、そして不屈の精神の証です。

特に、私にとって意味深いのは、JAAGA が創設された際に在日米軍司令官および第 5 空軍の司令官として奉仕する特権を持っていたからです。創設当初、私たちは、より強固な軍事的結びつきを築くだけでなく、私たちの空軍間のより強く、継続的な個人的関係を築くことの重要性を認識しました。信頼、相互尊重、そして共通の目的に基づいた関係です。

残念ながら、私は記念式典に直接出席することができませんが、この重要な機会を祝う皆様と心を一にしていることを知ってください。

JAAGA が 30 年を経てなお強く、活気に満ち、使命に対してコミットしていることを特に嬉しく思います。私たちの二つの空軍の関係は、今日も以前にも増して重要であり、中国の台頭や北朝鮮のますます好戦的になる姿勢がもたらす課題を考えると、なおさらです。強固なパートナーシップ、緊密な協力、そして継続的な友情は、インド太平洋地域の平和、安定、安全を維持するために不可欠です。

この素晴らしい記念日を祝うにあたり、過去 30 年間にわたる JAAGA の成果に感謝し、今後のさらなる成功をお祈り申し上げます。

また、今秋ワシントン D.C. で JAAGA の代表者をお迎えできることを楽しみにしています。心よりの敬意と再度のお祝いを申し上げます。

元米太平洋空軍司令官
元米空軍副参謀長
キャロル H. チャンドラー空軍大将
Gen (Ret) Carrol H. Chandler/
Ret. Commander of U.S. Pacific Air Forces,
Vice Chief of Staff of the U.S. Air Force



Dear Members of JAAGA

Thank you for your kind invitation to participate in the JAAGA 30th Anniversary activities.

Eva-Marie and I send our sincerest best wishes for a memorable and enjoyable celebration.

Please know that we consider our time on Okinawa and command at Pacific Air Forces highlights of our time in the United States Air Force.

We cherish many memories each made special by our professional relationships and personal friendships with our Japanese counterparts. We look forward to participating in future JAAGA activities.

JAAGA のメンバーの皆様へ

JAAGA の 30 周年記念活動に参加するためのお招き、ありがとうございます。

エヴァ・マリーと私は、思い出に残る楽しいお祝いを心よりお祈り申し上げます。

私たちは沖縄での太平洋空軍を指揮した期間を、アメリカ空軍にいた期間のハイライトと考えています。

私たちは、日本の同僚とのプロフェッショナルな関係や個人的な友情によって育んだ特別な思い出を大切にしています。

今後の JAAGA の活動に参加できることを楽しみにしています。

アメリカ合衆国駐在
特命全権大使
山田 重夫
Shigeo Yamada/Ambassador of Japan
to the United States of America



JAAGA 創設 30 周年記念誌への寄稿文

この度は、JAAGA 創設 30 周年の節目を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。在アメリカ合衆国日本国大使として、皆様のこれまでの多大なるご貢献に対し、心より敬意と祝意を表します。

1996 年の創設以来、JAAGA は航空宇宙分野における日米の懸け橋として、官民の枠を超えた人的ネットワークを強固に築き上げてこられました。それは、井筒会長をはじめとする JAAGA 訪米団ご一行による継続的なワシントン D.C. 訪問を含む内外での活発な活動によって成し遂げられたものであります。この 30 年という歳月は、JAAGA と会員の皆さまが米国と共に歩んできた歴史でもあり、皆様の活動が航空自衛隊と米空軍・宇宙軍との信頼関係をより確かなものとしてきたことに、深く感謝申し上げます。

今日、日米両国を取り巻く安全保障環境は、かつてないほど複雑かつ困難な様相を呈していま

す。しかし、どのような厳しい局面においても、日米の「絆」が揺らぐことはありません。日米関係は、単なる二国間の外交や戦略的な利害の一致を超え、強固な「信頼」によって支えられています。この「信頼」こそが、揺るぎない日米同盟の礎であり、自由で開かれた国際秩序を維持し、地域の平和と安定を支えてきたと確信しております。

特に航空宇宙領域においては、技術の進歩が防衛のあり方を根本から変えようとしています。宇宙空間の安定利用、そしてサイバーや電磁波といった新たな領域での運用が求められる中、日米の連携はもはや不可欠です。そのような中で、今年度末、航空自衛隊が「航空宇宙自衛隊」へと改編されることは、極めて歴史的な意義を持つ大きな転換点です。これは、宇宙領域を陸、海、空と同等の作戦空間と位置づけ、我が国の国民生活の基盤としての民間を含む我が国の宇宙利用を確保するため、幅広い能力を構築・強化していくという我が国の強い決意の表れです。この先も日米双方が宇宙空間での防衛協力関係を一層深化させ、同盟の抑止力・対処力を飛躍的に向上させるものと期待しております。

在米国日本大使館においても、退役、現役を問わず、数多くの米軍将官に様々なレセプションやイベントに参加頂き、良好な関係構築を行ってきました。在日米軍経験者とその家族を含めたネットワーク強化を図るためのプログラム「JUMP（Japan U.S. Military Program）」、各地でのイベントやレセプション、ソーシャルメディアを通じて広報活動を行い、在日米軍関係者との幅広い交流を図っています。

これからも JAAGA と会員の皆様が国防の現場を預かる自衛官と米軍人同士の厚い信頼関係と両国の絆を繋ぐ揺るぎない礎として、ますます発展を遂げられることを心より祈念いたします。最後になりますが、長年にわたる皆様の献身的な取り組みに対し改めて敬意を表するとともに、今後のさらなるご活躍とご健勝を祈念し、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。創設 30 周年、誠におめでとうございます。



第 8 代航空自衛隊准曹士先任
准空尉　髙 着 弘 康
The 8th Senior Enlisted Advisor of Koku-Jieitai (JASDF)
WO Hiroyasu Kochaku



日米エアフォース友好協会（JAAGA）が創設 30 周年という節目を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。

我が国を取り巻く安全保障環境が急速に変化する中、JAAGA 会員並びに賛助会員の皆様におかれましては、1996 年の創設以来、日米同盟の深化を支えるべく、様々な場面において米国空軍と航空自衛隊との緊密な連携と信頼関係の構築・発展に多大なるご尽力を賜っております。

私自身も、2012 年から 2015 年まで横田基地において第 5 空軍司令部（CCJ）で勤務する機会をいただき、JAAGA の皆様と深く関わらせていただくとともに、貴重な経験を積ませていただきました。日本国内にとどまらず、米国本土を含め各国に駐留する米空軍部隊への訪問・激励など、日米両国の隊員のために様々な取組を継続されていることに、改めて敬意と感謝を申し上げます。

また、空自先任として平素から横田基地の米空軍人のみならず、太平洋空軍や太平洋宇宙軍をはじめとする国外から訪日する多くの米空軍人と接する機会を有しております。そのような中で、彼ら彼女らの日本に対する理解や友好の想いをより一層強固なものとする上で、JAAGA の果たしてこられた役割は極めて有意義であり、かつ大きなものであると強く認識しております。

特に、日米共同訓練や多国間演習等に際しては、格別のご支援・ご協力を賜るとともに、現地において我々准曹士隊員に対し直接の激励をいただいております。さらに、三沢及び関東、沖縄の各地区においては、毎年 JAAGA 表彰を実施していただいており、隊員の士気高揚と更なる成長への大きな励みとなっております。心より感謝申し上げます。

現在、航空自衛隊は宇宙領域における任務の拡充に取り組んでおります。2022 年の宇宙作戦隊の発足以降、宇宙作戦群、そして本年 3 月には宇宙作戦団へと発展し、宇宙空間の安定利用と我が国の安全確保に寄与すべく任務に邁進しております。我々現役隊員は、米国宇宙軍との連携を一層強化し、信頼関係の更なる深化に努めてまいります。

改めまして、JAAGA 創設 30 周年、誠におめでとうございます。

貴協会が、我が国の平和と安全の確保、そして空と宇宙の守り及び宇宙空間の安定利用を支える大きな力として、今後ますます発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

令和８年７月吉日



With the Commander of PACAF and the Command Chief at PACS 2026



With the Command Chief of PACAF and the at PACS 2026

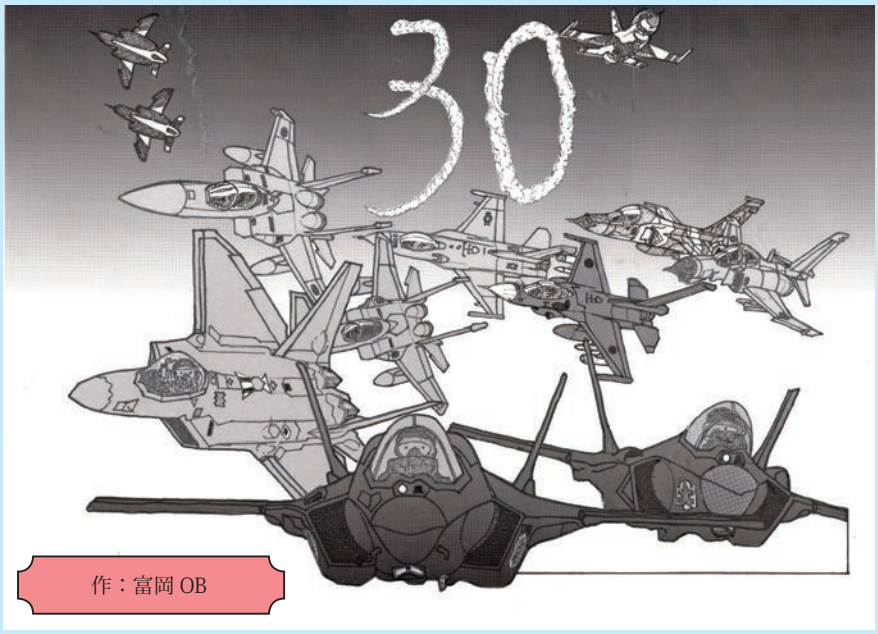


With the Chief of Staff of the USAF and the Command Chief at International Honor Roll, 19 April, 2024

祝 JAAGA 創設 30 周年をお祝い申し上げます
Congratulations on JAAGA's 30th Anniversary of Foundation

JAAGA 法人賛助会員一同
From All the Supporting Corporate Members of JAAGA

＊ IHI　＊アイ・テック　＊石橋オフィスサポート　＊伊藤忠商事
＊エクシオテック　＊兼松　＊兼松エレクトロニクス　＊川崎重工業
＊シー・キューブド・アイ・システムズ　＊ SUBARU　＊相互物産　＊双信商事
＊双日　＊東京航空計器　＊東芝　＊日本電気　＊日本飛行機　＊富士通
＊藤倉航装　＊フジワラ　＊渕上建設工業　＊丸一土地建物
＊丸紅エアロスペース　＊三菱重工業　＊三菱商事　＊三菱商事マシナリ
＊三菱電機　＊三菱プレシジョン　＊武蔵富装　＊ノースロップ・グラマン・ジャパン
＊ BAE Systems Japan 合同会社　＊ Boeing Japan
＊ロッキード マーティン グローバル インコーポレーテッド



作：富岡 OB

JAAGA30 周年記念講演会

Commemorative Lecture of the 30th Anniversary of the Foundation of JAAGA

「東日本大震災の複合災害対応とトモダチ作戦から学ぶ日米連携・指揮統制」

Reflections on Operation Tomodachi : Its Influence on the US-Japan Relationship

JAAGA 創設 30 周年記念講演会は、元在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官であり JAAGA 名誉会員でもあるバートン・M・フィールド氏（Lt Gen（Ret）Burton M Field）により、「東日本大震災の複合災害対応とトモダチ作戦から学ぶ日米連携・指揮統制」と題して行われた。多くの聴衆の来場を予期し広めの会場を準備していたが、当日は 200 名に迫る聴衆が熱心に聞き入った。



公演に先立ち司会の上ノ谷理事から、フィールド氏は米空軍で 35 年の勤務経験を持ち、2011 年の東日本大震災時に在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官として「トモダチ作戦」を指揮したこと、F-16 等で 3400 時間以上の飛行経験を持つパイロットであり、統合参謀本部勤務やアフガニスタン・パキスタン特別代表の軍事補佐官などを歴任、退役後はロッキード・マーティン社副社長などを経て、現在は空軍宇宙軍協会の会長兼 CEO を務めていること等が紹介された。



フィールド氏は多数の聴衆に驚いたと述べるとともに、JAAGA の活動と連携に感謝の意を述べた。さらに、「トモダチ作戦」が自身の人生観も変え、日本を「第 2 の故郷」と感じていると述べたうえで、今回は当時の役職で感じた視点の共有と前置きされた講演の概要は以下の通りであった。

まず実際の震災がどういうものであったかについて触れたいと思いますが、まさに見たこともなかった災害だと思います。3 月 11 日の午後、横田基地で会議中であった我々を突然大きな揺れが襲いました。しかもかなり長い時間の揺れでした。この時の地震はマグニチュード 9.0 でしたので、TNT 火薬 4 億 7500 万トンに相当する極めて巨大なエネルギーであり、本州は東側に最大 10 ～ 13 メートル移動し、地球の自転軸にも影響を与え、1 日の長さが 1.8 マイクロ秒長くなったほどでした。私の知り合いの大佐、アフガニスタン等でも任務経験があるのですが、彼がちょうどその時日本にいて、外を見たときビルがまるで木のように揺れているのを見て、自分はもう死ぬんだと思ったと言ったほどでした。

当然これだけの規模の地震ですから津波が発生しました。高さ約 40 メートルで、ご存知の通り、日本の海岸沿いは大きな被害を受けました。私は被害を受けた海岸をくまなく回りましたが、それは非常に過酷な作業でした。結局のところ、太平洋に面するすべての海岸線で、そのような事態が起こったとは信じがたいことでした。



当時はまだ私たちは何もわかっていませんでした。しかし、ニュースを見始めると、津波が海岸線に押し寄せている映像が流れてきました。そして、私たちが日本の人々を助けなければならないような事態になるだろうと悟ったのです。

私は日曜日から翌週の月曜日にかけて、防衛大臣と統合幕僚長と共にヘリで現場を確認しました。そして、この出来事による影響の一部を目の当たりにすることになったのです。仙台空港に着陸を試みたのですが、空港はほぼ水没していました。そこにあった車や、大小さまざまな飛行機がすべて水に飲み込まれていまし

た。空港で使うあらゆる機材が、滑走路の片側に押しやられていたのです。本当に信じられない光景でした。そこで松島基地に着陸しました。F-2 が流されていて建物に刺さっているなど非常に被害が大きかったです。この津波は、約 240 ～ 300 マイルの範囲、そして最大で 6 マイルの幅にわたって襲来したわけで、画面では見られない、見るではなく視界いっぱいに惨状が広がっていました。まるで神様がバターナイフを持って降りてきて、海岸周辺を丸ごと削り取ったかのような有様でした。ある記憶が今も鮮明に残っています。それは、おそらく 3 階建てだった建物の 2 階部分に 80 フィートくらいのボートが残されていたことです。

震災の翌日、米海軍のヘリが生存者救出のために現地に入ったのですが、津波から逃れられた人は見つけることができませんでしたが、犬が着陸したヘリに駆け寄ってきて救助することができたのです。このことがニュース映像で流れましたので、皆さんの記憶に残っているかと思います。

次は福島第一原発です。津波によって発電所の電源がすべて遮断されてしまったのです。これは深刻な事態です。なぜなら、燃料棒が冷却されているかどうかさえ判断できなくなってしまうからです。そして土曜日、最初の爆発が発生しました。これについては後で詳しく話しますが、まず私の分析は、「これはまずい」ということでした。月曜日から水曜日の間に、さらに 2 基の原子炉で爆発が発生し、これまでよりもはるかに多くの放射能が漏れ出しました。この事故は、国際評価尺度でチェルノブイリに次ぐ 2 例目の「レベル 7」と評価され、結果的に「ハリケーン・カトリーナ」級の津波、「BP 原油流出事故」級の環境汚染、「チェルノブイリ」級の原子力事故という 3 つの大規模災害が一つの国で同時に発生した、前例のない非常に特徴的な複合災害になりました。



当時、第 13 空軍が日本国内の部隊に対する作戦指揮権を有していました。私は司令官として、第 5 空軍と在日米軍司令部内の要員に対して一定の行政上の権限は有していましたが、作戦指揮権は持っていませんでした。私は赴任してから約 5 ヶ月半が経過していましたので、日本のカウンターパートたちとの関係を築き始めました。さらに、在日米軍のすべての部隊に連絡を取りました。私は陸軍、海軍、そして海兵隊のすべての担当者と話をしています。くわえて駐日米国大使とも連絡を取りました。

土曜日には、在日米軍の有するヘリをできるだけ現地に送るための計画を立てました。その際、3 つの目標を設定しました。災害対応完了後、日米同盟がそれまで以上に強化されていること、米軍は自衛隊を支援する役割に徹し決して主導しないこと、全ての活動は日本の人々のために行うということでした。加えて、活動中に問題が生じても、現地にはもっと大変な人がいるのだから自分たちの問題は大したことはないとも話し合いました。

司令部に海軍の原子炉課程を修了した原子力専門家や人道支援の経験豊富な人材を集めて、計画を作成したのですが、その際、軍種ごとの縦割りではなく、機能別に部隊を組織するとともに、目標に対して統一して臨み、「許可を求めるより、許しを乞う方が良い」という姿勢を強調しました。この対応に関しては米国関係者との合意を得て進めることができました。こういった調整が進む中で、原発事故にどのような対応をすべきかとの課題にぶつかりました。そこで「Physics for Future Presidents」といった書籍を早朝や深夜に読み、勉強しながら対応しました。また、軍事作戦を立案する姿勢で検討したのです。戦場での情報準備を応用し、戦場イコール原発の状況把握をレゴブロックや図を用いて行い、最悪の事態を想定した計画を策定しました。もう一つ、放射能が、「空気」「地面」「海」でどう拡散しているかを把握する必要性でした。それが「放射線コモン（Radiological Common）」でした。

当時現地の道路状況が全く分からなかったため、ハイチ地震での前例を参考に Google 社へ協力を要請し、現地の情報というのを徐々に把握し始めました。また、放射能に関しても、米海洋大気庁（NOA）の協力を得て汚染状況を入手し始めました。

3 月 20 日になると、当時太平洋艦隊司令官であったパトリック・M・ウォルシュ海軍大将（Adm（Ret）Patrick M Walsh）が指揮する 50 ～ 75 名からなる JTF519 が来日しました。しかし、初動要員と JTF519 の間に役割分担に関する問題が発生しましたので、我々は最初に定めた 3 つの目標を明確にしつつ、ディスカッションし、問題は収束していきました。また、統合幕僚長から米軍が日本の活動を「乗っ取って」しまうのではないかという懸念が示されたため、部隊名を「統合任務部隊（Joint Task Force）」から「統合支援部隊（Joint Support Force）」に変更し、支援の意図を明確化しました。

原発対応ですけれども、東京電力は民間企業として損失抑制に注力せざるを得ず、外部支援を求めにくい状況にあったといえます。また、放射能という目に見えない脅威は我々に恐怖を与え、自身の家族が危険に晒される可能性に大きな懸念を抱いていました。

この時点でフランスや米国のほか多くの国が支援を申し出ていました。米国は原子力規制委員会（NRC）の安全性確保規制は極めて厳格なので、NRC が指示することを実行してみてはとの提案も行いました。米国では、発電所におけるあらゆる状況をシミュレーションで再現する訓練が行われています。制御機能が失われ、もはや核反応を制御できなくなると、原子炉格納容器から避難することになります。さらに、格納容器から放射能汚染水があふれ出てしまったらどうなるのかという議論もしました。



日本側とのコミュニケーションにも問題がありました。言葉の問題もありましたが、それぞれの幕僚が個別に調整するため、全体像が浮かび上がってきませんでした。そこで、語学ができる双方のチームを互いの本部に派遣することとしました。プリズナー・エクスチェンジ（prisoner exchange）ですね。こちらから更に 25 名ほどを市ヶ谷に派遣し、日本側のチームも横田にやってきました。ルールは非常に単純でした。誰もが参加したい会議には参加すればいい。ここには秘密なんて何もなく、立ち入り禁止なんてものもないと。直接会議に参加することで、コミュニケーションが格段に良くなりました。

このときは、各省庁が互いに話し合い、情報を共有できるような適切な省庁間連携の仕組みが実際には整っていなかったため、東京電力が、全員が同時に同じ情報を得られる唯一の場で、すべてがバラバラでまとまりのない状態でした。ほぼ同時期に、細野議員がこの構想を考案し、それは「ホソノ・プロセス」と呼ばれるようになりました。これは基本的に、政府、東京電力、軍の関係者を一堂に集め、適切なタイミングで正しい情報を得られるようにするための仕組みでした。しかし、これらすべてが連携して機能するようになるまでには、かなりの時間がかかりました。そのため、初期段階では、コミュニケーションは実にひどいものでした。

時間が来てしまったので、これでお話を終わりたいと思います。この後の懇親会で質問をいただければと思います。日本語が話せる軍人が来ていますので大丈夫ですよ。英語や日本語という語学だけではなく、軍や金融、外交官等各専門領域の垣根を乗り越えて、どの様にコミュニケーションを取るかという点で、これは本当に素晴らしい教訓です。　　（浅井理事記）







質疑応答

Q：本任務をやっている中で、感動した場面がありましたら、ぜひご紹介ください。

A：石巻市で、被災者が食料配給のために静かに規律正しく列に並ぶ姿や、生徒を救うために命を落とした教師たちの自己犠牲の物語に深く心を打たれました。

Q：今日のパートナーシップの基盤をどのように築き上げたのかについても、お聞かせください。

A：この作戦を契機に日米の信頼関係は深化しました。2015 年には日本側で防衛体制の解釈変更が行われ、政治・軍事（Pol-Mil）側面と実作戦の連携が強化され、より実効性の高い協力が可能となりました。



JAAGA AWARD 2025 受賞者紹介／創設 30 周年記念祝賀会

2025 JAAGA AWARD Awardees Introduction/ JAAGA 30th Anniversary Celebration, Jul 14 '26

講演会終了後、会場をグランドヒル市ヶ谷の 3 階「瑠璃」に移して JAAGA AWARD 2025 受賞者紹介及び JAAGA 創設 30 周年記念祝賀会が開催された。参加者は 285 名で、会員 168 名（正会員 82 名、個人賛助会員 30 名、法人賛助会員 21 社 53 名、名誉会員 3 名）、招待者 91 名（空自関係者 49 名、米軍関係者 35 名、その他招待者 7 名）及びその他 26 名（音楽隊、副官等）であった。（菅原理事記）

JAAGA AWARD 2025 受賞者紹介

祝賀会に先立ち、川波理事の日本語及び英語による司会進行により JAAGA AWRD 2025 受章者紹介が行われた。

はじめに井筒会長より、「JAAGA AWARD は、航空自衛隊と米空軍との友好と相互理解に貢献した隊員を表彰するために 1998 年に創設され、これまで 28 年間で合計 206 名の隊員、航空自衛隊から 123 名、米空軍から 83 名が表彰されています。」旨の説明があった。

三沢地区から、第 35 戦闘航空団司令官業務企画室長のエリカ・ウーレヴァー中尉、北部航空警戒管制団の白石華咲希 3 等空曹・アルベスご夫妻、関東地区から第 374 空輸航空団のシドニー・ウッドハウス上等空兵、作戦情報隊の池田綾子空曹長、作戦システム運用隊の平沼知樹 2 等空曹、第 1 輸送航空隊の貝塚茂樹 2 等空曹・夕有子ご夫妻、宇宙作戦団の田口嘉大 1 等空曹・真子ご夫妻、沖縄地区より、第 18 航空団第 718 部隊支援中隊のジャクリン・キャンシーノ 2 等軍曹、那覇救難隊の中尾和宏准空尉・由紀ご夫妻、以上 9 名の受賞者が紹介された。



勤務のため当日参加できなかったジャクリン・キャンシーノ 2 等軍曹を除く 8 名の受賞者及びパートナーの方々が中央ステージ上に登壇して井筒会長と握手を交わした後、記念写真撮影が行われた。会場からは惜しみない拍手が受賞者に送られた。









30 周年創設記念祝賀会

引き続き川波理事の司会により、30 周年創設記念祝賀会が開始となった。

＜日米両国国歌独唱＞

はじめに日米両国の国歌独唱が、米国国歌は米空軍太平洋音楽隊のアシュリー・ヒューズビー軍曹が、日本国国歌は航空中央音楽隊の清水万理子士長がそれぞれ独唱し、参加者は正面の国旗に正対して清聴した。

続いて井筒会長より、「JAAGA は日本と米国の航空部隊間の緊密な協力と相互理解を促進するために 1996 年に創設され、今年はその創設から 30 周年を迎えます。この 30 年間、私たちは両国の航空部隊間の協力強化と相互理解の深化に尽力する幅広い活動を継続してまいりました。長年にわたり私たちの活動を支えてくださったすべての方々の多大なご尽力に深く感謝申し上げ、過去から現在に至るまで、協会の発展と成功に貢献してくださったすべての方々に心からの感謝の意を表します。創設 30 周年を迎えるにあたり、創設メンバーの方々の功績を忘れてはなりません。その献身と先見の明に敬意を表し、しばしの時間をいただいて感謝の意を表したいと思います。冷戦終結後、当協会の創設メンバーは日米関係を深く憂慮しました。そして航空自衛隊と米空軍の絆を将来にわたり強固なものとするため、現役だけではなく退官者もその懸け橋にならなければならないと考えました。その努力が現在の日米の空と宇宙の関係強化に結実し、JAAGA がその一翼を担ってきたことを誇りに思います。」との挨拶があった。





＜ Charter Member 表彰（正会員）＞

会長より、創設メンバーである正会員の方々に感謝の意が表され、31 名の創設メンバーがスライドで紹介された。創設メンバーの内、当日臨席された大橋武郎様、小田康夫様、森本益夫様の 3 名の方がステージ上に招かれ、井筒会長より全会員を代表して記念ピンバッジが贈呈され、記念撮影が行われた。会場はあたたかく大きな拍手に包まれた。





＜ Charter Member 表彰（法人賛助会員）＞

続いて、創設メンバーである法人賛助会員の皆様に感謝の意を表され、14 社の代表者が登壇して表彰され、記念品授与及び写真撮影が行われた。会場内は大きな拍手をもって感謝の意を表した。表彰された創設メンバーの法人賛助会員は、株式会社 IHI、伊藤忠商事株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社 SUBARU、双日株式会社、東京航空計器株式会社、株式会社東芝、日本電気株式会社、日本飛行機株式会社、富士通株式会社、三菱重工業株式会社、三菱商事株式会社、三菱電機株式会社及び三





菱プレシジョン株式会社の 14 社であり、各社に記念品が贈呈された。

会長より、「来春、航空自衛隊は航空宇宙自衛隊へと進化します。私たちの協会は今後も、空と宇宙を守る両国の隊員、そして航空宇宙防衛に携わる隊員の皆様を力強く支援し、日米の空・宇宙分野における協力と連携が円滑に進むよう努めてまいります。そして、そのことを通じて、これからのより強固な日米関係の構築に貢献してまいります。改めて、引き続きご支援頂けますようお願い申し上げます。」との挨拶で表彰式が締めくくられた。

＜来賓あいさつ＞

次にご来賓の方々のうち、宮﨑政久防衛副大臣、門間航空幕僚副長及びキャリー第 5 空軍司令官より、要旨次のとおり御祝辞をいただいた。

【防衛副大臣　宮﨑政久様】

JAAGA 創設 30 周年をお祝いするとともに、井筒会長はじめとする会員の皆様、米空軍及び航空自衛隊の日米関係者による JAAGA 発展への貢献に対し敬意を表します。1996 年以来、JAAGA が航空宇宙分野における日米両国の相互理解や防衛協力の促進に寄与してきたことに対し、感謝申し上げます。インド太平洋地域の安全保障環境は過去にないほど厳しくなっています。日米同盟は日本の防衛と地域の平和と安定の礎石であり、共同訓練や情報共有、先進技術分野での協力などにより更なる協力の深化を期待しています。6/22 から 7/1 にかけてバリアント・シールド 2026 が西太平洋にて行われ、7/9 には沖縄北方の東シナ海上空で日米空軍種の共同訓練が実施されました。今日、日米協力は宇宙やサイバー領域にも拡がり、また協力はシステムや装備だけではなく日米の人と人の相互信頼に成り立っています。JAAGA はこうした友情や信頼関係の向上に大きく寄与しており、30 周年という節目は、JAAGA 及び日米関係の更なる進展に繋がるものと期待しています。





【航空幕僚長代理　航空幕僚副長　門間空将】

JAAGA 創設 30 周年をお祝い申し上げます。同時に米国の建国 250 周年をお祝い申し上げます。また、井筒会長が述べたとおり航空自衛隊は航空宇宙自衛隊へと生まれ変わります。ということで今年は三つの記念日が重なっていることになります。本日は森田航空幕僚長が国外出張のため出席できませんでしたので、森田空幕長からのメッセージを代読します。『JAAGA 創設 30 周年をお祝い申し上げます。隊員への激励や文化交流支援など、多大なるご支援に感謝いたします。JAAGA 主催の各種行事等を通じ、年々日米隊員相互の絆がより強固なものとなっていると実感しており、まことに喜ばしく思います。我が国を取り巻く安全保障環境が戦後最も厳しく複雑な様相を呈している中、航空自衛隊は本年度中に航空宇宙自衛隊へと改編されることとなりました。その名に相応しい組織となるよう、更なる能力の向上に努めてまいる所存です。また本年は米国建国 250 年という大きな節目の年であるとともに、在日米空軍にとっても第 5 空軍司令官が専任化されるという重要な変革の年だと認識しています。これはインド太平洋地域の平和と安定にとって日米同盟が重要であること、更には日米空軍種間の連携が戦略的意義を有することの証左であると認識しています。両国の絆をより強固なものとするためには共同訓練を通じた相互運用性の更なる向上といった目に見える取り組みに加えて、相互の友情や信頼、尊敬といった無形の要素も極めて重要です。こうした無形の要素の醸成・深化に JAAGA が果たしてこられた役割は極めて大きいものと認識しています。今後とも空自と米空軍との懸け橋として一層の融和と発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます』。



【第 5 空軍司令官　キャリー中将　Joel L. Carey, Commander of the Fifth Air Force】

JAAGA 創設 30 周年をお祝い申し上げます。30 年というのは自分の日本での軍歴とも



重なる期間です。私は任官後早い時期に日米関係の重要性を学びました。勿論、楽しいことばかりでなく、先ほどフィールズ元司令官からあったとおり日米間で立ち向かったハードな状況も多々ありました。ご承知のとおり、現在の安全保障環境は厳しさを増していくと容易に想定されます。われわれの鉄の絆は今まで以上に重要性を増すことになります。退役軍人の方々が現役時代に蒔いた種が現在実を結んでいることを実感していると思います。こうした進化は、指揮統制、第5世代戦闘機、KC-46A、IAMD など、これからも進展していくことでしょう。しかし現状で満足することなく、日米間の統合を次の段階に進めていく必要があり、自分の上司や更にその上司にもその重要性を具申していく所存です。米第5空軍兵を代表して JAAGA30 周年を祝福いたします。

＜来賓紹介＞

司会の川波理事より来賓の方々が紹介され、会場から大きな拍手が送られた。紹介された来賓の方々は次のとおり。

＊名誉会員元空軍参謀長　シュワーツ大将
（Honorable member, the former Chief of staff, United States Air Force, Gen and Mrs. Norton Schwartz）

＊元在日米軍司令官兼5空軍司令官　バートン･フィールド中将
（Today's Guest Speaker and the former commander, US Forces Japan and 5th Air Force United States Air Force, Gen Burton Field）

＊航空総隊司令官　稲月　秀正空将
（Commander, Air Defense Command, Lt Gen Inatsuki Hidetada）

＊補給本部長　小島　隆空将
（Commander, Air Materiel Command, Lt Gen Kojima Takashi）

＊航空開発実験集団司令官　佐藤　網夫空将
（Commander, Air Development and Test Command, Lt Gen Sato Amio）

＊中部航空方面隊司令官　久保田　隆裕空将
（Commander, Central Air Defense Force, Lt Gen Kubota Takahiro）

＊米第5空軍副司令官　ネイサン・コルンガ大佐
（Deputy Commander, the Fifth Air Force, Col Nathen Colunga）

＊在日米宇宙軍司令官　ジョン・パトリック大佐
（Commander, U.S. Space Forces Japan, Col John Patrick）

＊米国大使館付空軍武官　アンディー・リー大佐
（Air Attaché to the U.S. Embassy, Col Andy Lee）

＊ JANAFA 会長　渡邊　剛次郎様
（The President of the Japan America Navy Friendship Association, Adm Watanabe Gojiro）

＊元統合幕僚長　岩崎　茂様
（The Former Chief of Staff, Joint Staff, Gen Iwasaki Shigeru）

＊元航空幕僚長　遠竹　郁夫様
（The Former Chief of Staff, Koku-Jieitai, Gen Totake Ikuo）

＊元航空幕僚長　外薗　健一朗様
（The Former Chief of Staff, Koku-Jieitai, Gen Hokazono Ken-ichiro）

＊元航空幕僚長　齊藤　治和様
（The Former Chief of Staff, Koku-Jieitai, Gen Saitoh Harukazu）

＊つばさ会副会長、元航空幕僚長　丸茂　吉成様
（The Vice President of the Tsubasa-kai, the Former Chief of Staff, Koku-Jieitai, Gen Marumo Yoshinari）



＜祝電披露＞

来賓紹介に続き、川波理事より祝電が披露された。紹介された祝電は次のとおり。

＊前参議院議員　佐藤　正久様
（Former Member of the House of Councilors, Mr. Satoh Masahisa）

＊名誉会員であり米空軍参謀総長　ケネス・ウィルスバック大将
（Honorable Member, and Chief of Staff, U.S. Air Force, Gen Kenneth Wilsbach）

＊名誉会員であり米太平洋軍司令官　ケビン・シュナイダー大将
（Honorable Member, and Commander, Pacific Air Force, Gen Kevin Schneider）

＊名誉会員であり元米国統合参謀本部議長　リチャード・マイヤーズ退役大将
（Honorable Member, and Former Chairman of the Joint Chiefs of Staff of the U.S., Gen Richard Myers）

その他頂戴した祝電については、祝賀会場入り口に掲示している旨のアナウンスがあった。

＜祝宴開始～音楽演奏＞

祝宴のはじめに、航空中央音楽隊の金管メンバー 5 名（トランペット× 2、ホルン、トロンボーン、チューバ）による演奏で岡野貞一作曲「ふるさと」を清水士長が、続いてカーマイケル作曲「スターダスト」を米空軍太平洋音楽隊アシュリー軍曹がそれぞれ歌唱し、続いて御祝の楽曲としてスーザ作曲「海を越える握手」が奏でられた。日米両国のフレンドシップを象徴し、あたたかさを感じさせるような楽曲と洗練された演奏に参加者が耳を傾け、最後にフロアから大きな拍手が送られた。

歓談の時間は、あちらこちらで日米参加者の輪ができており、グラスを片手に和やかな雰囲気で会話も弾んでいる様子であった。

＜お開き＞

祝賀会の締めくくりとして、元航空幕僚長であり、つばさ会副会長、そして JAAGA 前会長である丸茂吉成様から挨拶があった。『JAAGA 初代会長は大村元航空幕僚長、当時の米第 5 空軍はエバハート司令官でしたが、以来 30 年の長い歴史があります。皆様からの JAAGA へのご理解、ご支援により JAAGA はこの 30 年、大きな成功を収めることができました。次の 30 年も日米の関係は更に進展し、強化され、繁栄することとなるでしょう』。

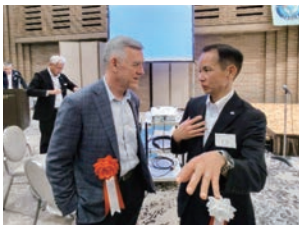
最後に丸茂前会長の発声による乾杯をもって、会場内はあたたかな雰囲気のなか、祝賀会はお開きとなった。

























～ Special contribution to the 30th anniversary of JAAGA ～

JAAGA 創設 30 周年特別寄稿

第 10 代 JAAGA 会長　岩崎　茂



JAAGA 創設 30 年に寄せて

全国の JAAGA の会員の皆様、こんにちは。

今年で JAAGA が創設されて 30 年とお聞きし、えっ？もうそんなに年月が経過したの？と思いました。あっという間の 30 年でした。私は、いつの時点で入会したのか明確に覚えておりませんが、ある時、順番？回ってきて JAAGA 会長を幸運にも 3 年に亘り務めさせて頂きました。皆様ご承知のとおり、JAAGA は資産をほぼ所有しておりませんので、JAAGA として、どこかを訪問する際には、ほとんどの場合には、各自で支払うか、各自が勤務している会社にお願いしないといけませんが、私は幸運にも退官後、お世話になっておりました（株）ANA ホールディングスのご理解もあり、JAAGA の主要行事である米国訪問行事（米国 DC 訪問＋米空軍部隊訪問＋ AFA 会議・展示会への参加）及び JAAGA に貢献してくれた日本各基地等で勤務している米空軍の隊員や航空自衛隊の隊員の表彰等の為、日本各地を訪問することができ、現役時代には出来なかったいろいろな経験を積むことができました。JAAGA には感謝しかありません。今回は、わざわざ書面を頂きましたので、私の JAAGA に関する思いを徒然なるままに書き綴ってみたいと思います。

まず最初に、私が、JAAGA とお聞きし、何の略なんだろうと思いました。Japan や America、そして Air Force はある程度想像できましたが、“G” は？最後の “A” は多分 Association と思いましたが ”G” がわかりませんでした。そこで、ある先輩にお聞きしたら、“G” は Goodwill でした。素晴らしい言葉です。通常であれば、いろんな友好団体は Friendship とかを使っている場合が多いのですが、”Goodwill“。なんと素敵な命名なんだろうと思いました。初代の会長は、現役時代にご指導賜りました大村平空幕長、副会長は鈴木昭雄空幕長、理事長は石塚勲防衛部長・総隊司令官・空幕長（全て私がお仕えした際の職）でしたので、このお三名でお考えになられたのかなと勝手に理解しております。

私は，不届きなことに JAAGA のいろいろな役職を経ずに 2016 年から JAAGA 会長を 3 年もの期間仰せつかりました。この間、無事に役職を全う？できたのは、当時の森下・渡辺・長島副会長や小野田理事長等に支えて頂いたお陰だと感謝しております。

私が JAAGA 会長に就いて間もなく、JAAGA の大きな行事がありました。“JAAGA 創設 20 周年記念行事 ” です。私は JAAGA のことはあまり知らず、不安がいっぱいだったことを覚えています。しかし、すべての準備は私の前任である外薗会長以下の役員の方々がしっかりとやってくれておりましたので、私の任務は、式典当日の式辞のみ。当時のことは今でも鮮明に記憶しています。この書面の冒頭で、えっ？もう 30 年と書いたのは、あの大汗をかいた日からもう 10 年も経過？と感じたからです。

また、私が会長の期間中に、会長として米国訪問を四回、日本各地を 10 ヶ所以上訪問することができました。米国訪問が多いのは、日本向けの F-35 の初号機のロール・アウト式典があったからです。式典は、テキサス州のロッキード・マーティン社で行われました。大変すばらしい式典でした。また、その際工場も見学させていただきましたが、日本向けの二号機、三号機、四号機も拝見することができました。その中で、ん？と思ったことが一点ありました。濃い青色の翼が見えたんです。そうです、我が国の F-2 の主翼です。私が空幕長当時被災した F-2 の主翼を米国のロッキード・マーティン社が再生産してくれていたのです。もともとは、私が米国に再生産をお願いした経緯があり、そのことをあまり認識せずに米国を訪問しており、やや恥ずかしい思いがしましたが、びっくりでした。JAAGA のお陰です。

そして、日米の各基地等を訪問し、各隊員と懇談をさせてもらいましたが、現役時代には得られない隊員の思いや・要望等に触れることができ大変有意義な部隊訪問でした。その際、懇談した中の何人かは、今でも交流を続けております。私にとって貴重な財産となっています。この様に、私にとって JAAGA は大変貴重な存在になっています。

JAAGA 創設 30 年になりましたが、JAAGA はこれまで空自のために、日米空軍職種の連携強化のため、そして日米連携のために貢献してきたことは紛れのない事実であり、JAAGA が、今後とも益々発展することを信じてやみません。ただ一点心配なことが、会員数がなかなか増えないことであり、寧ろ減員傾向にあるとのこと。是非、皆様方、一人でも多くの後輩に声掛けをしましょう。

～ Special contribution to the 30th anniversary of JAAGA ～

JAAGA 創設 30 周年特別寄稿

第 11 代 JAAGA 会長　齊藤　治和



JAAGA 創設 30 周年に寄せて

1996 年（平成 8 年）に誕生した JAAGA が今年 2026 年（令和 8 年）で創設 30 周年を迎えられたことに対し、先ずは心からのお祝いを申し上げます。

この 30 年間を振り返ると、我々の世界は冷戦後の劇的な情勢の変化の波に洗われながら顕在化した様々な新たな対立や、世界各地での悲惨な紛争を見てきました。

また、国境という既成概念の枠を越えた経済のボーダレス化や相互依存化という枠組みや、地球規模での問題解決のための協調的アプローチといった様々な新たな概念や国際間連携の進化も経験してきました。

なお、JAAGA 創設の 1996 年という時代における我が国を取り巻く安全保障環境に関し「日米エアフォース友好協会設立趣意書」では以下の様に描かれています。

米ソというスーパーパワーの二極間対立構造の枠組みの中で、日米同盟を基本とした相互の理解と協力のもと、我が国の平和と独立を維持してきた努力に対して、冷戦の終焉がもたらした平和の配当への希求と軍事力に対する忌避感という国内外世論の高まりを受け、従来までの努力に水を差すような様々な懸念や事案が我が国内でも見られることに対して、強い危機感が表わされています。

特に航空自衛隊は、その創設以来、米空軍から様々な絶大な支援を受けながら密接に連携し、我が国の空の守りを続けてきたという思いから、その危機感を払拭して、引き続き日米の空軍種間で強い紐帯を維持し続けることが、我が国の安全保障にとり不可欠であると強調しています。

その様な考えのもと、航空自衛隊 OB 組織「つばさ会」の下部組織としての JAAGA の活動にあたっては、我が国に所在している在日米軍、米空軍の将兵に対する激励及び士気を鼓舞することが日米相互の信頼を深化させ、現役隊員達を強力にバックアップするという認識、決意が述べられています。

日米の関係を時の流れの中で俯瞰するに際して、JAAGA 創設の 1996 年と 2026 年現在とでは、とりわけ米国自体が目指す国家の在り方、国際社会での基本的な立ち位置等の変遷が大きな影響を及ぼしていることは事実です。

冷戦を勝ち抜いたこの世界での唯一のスーパーパワーであった米国は、湾岸戦争、9.11 という未曽有の危機、イラク戦争、軍事・経済両面におけるライバルとしての中国の台頭等といった戦略上の多くの重要な節目を経て、世界の警察官としての役割の否定にはじまり、同盟国や友好国に対しての「安全保障のただ乗り」への非難はこれまで以上に厳しく、自らが果たすべき応分の努力と、貢献を強力に求めています。特に、第二次大戦後の対ソ（対露）欧州安保の要である NATO（加入国）に対する米国の基本的スタンスにも、従来までは見られなかった厳しい論調が伺えます。

このように、国家間関係の姿を見る際には、それぞれの国、地域での時の政権の考え方、国内外の政治情勢等が色濃く反映された姿が目につきやすく、場合によっては新たな緊張や、対立が生まれることも否定できません。

しかし、JAAGA が目指す個人や組織に対する激励や士気を鼓舞する活動は、心に訴えかける活動であり、時の政権の考え方や政治情勢といった流動的な要素に左右されるものではありません。

相互の立場の違いを超えて、国民の幸せな暮らしを守るという仲間同士としての理解、異なる国民同士の友好と信頼に基づいた相互理解へと結実していくものです。

ここで小生が現役時代に日米（空軍種間）での立場や見解の違いを局限化する努力の際のひとつのキーワードを思い出します。

「ハワイの司令部で我が国を見る目線とワシントン（ペンタゴン）から我が国を見る目線は、やはり違うことが多い」ということでした。

そのため、先ずは在日米軍（米空軍）のメンバーに正しくわが方の状況を理解してもらい、次いでハワイの司令部のメンバーにも、在日米軍（空軍）を通じて目線を共有してもらう努力を怠らないことを重視しました。

次いでペンタゴンでは、わが方からの直接のものとハワイの司令部を通じて、我が国に対する目線を共有して、理解してもらう努力を様々なルートで行うことを重視しました。

そのためには、普段からの意思疎通と相互理解が何よりも重要であり、信頼に基づく理解（業務のみならず余暇の際の相互理解を含む）無くして相手の共感は決して得られないことに重きを置いたものでした。

なお、小生が JAAGA 会長在任時に当時のブラウン太平洋空軍司令官が米空軍参謀総長として栄転されることが決定された際には、まさしくこの考えがスムーズに叶う一助となるものと感じたものです。

（ブラウン司令官は名誉会員として JAAGA に入会されました。）

生まれ育った米国の故郷の街から遠く離れ、日本での勤務を続けている在日米軍、米空軍の将兵の仲間達、並びに将兵と共に日本に住む家族の方々を含めた日米での温かな心の交流が日本を離れた後でも良き思い出として残り、日本に対する理解の素となり得るようにお手伝いすることの意義は創設以来 30 年が経っても変わらず、またこれからも変わらず続けていく必要があるものと思っています。

～ Special contribution to the 30th anniversary of JAAGA ～

JAAGA 創設 30 周年特別寄稿

JAAGA 第 13 代会長　丸茂　吉成



JAAGA 創設 30 周年に寄せて

日米エアフォース友好協会創設 30 周年、誠におめでとうございます。

本年 5 月まで第 13 代会長を務めた丸茂吉成です。

日米エアフォース友好協会は、冷戦終結後、日米同盟の重要性の希薄化が感じられた平成 8 年 5 月に「日米両軍の強い紐帯が安全保障上不可欠であると信じる航空自衛隊 OB 有志が中心となり、（中略）在日米軍を激励、士気を鼓舞し、両軍の信頼関係の深化を図り、米国民の我が国に対する信頼感の向上を願い、現役諸君を強力にバックアップしてゆく」ために組織されたものです。

それから 30 年が経過し、本年 3 月時点での会員数は、415 名、うち正会員が 242 名と承知しています。その活動は多岐にわたり、日米共同訓練における参加隊員への激励では、時代を反映して、インドやオーストラリアを含む日米共同訓練や、被害復旧を想定した施設分野での訓練への激励も行っています。

日米優秀隊員の表彰行事では、被表彰者を年次総会に招待し、功績の紹介を行っています。また、米国士官候補生の日本留学時における文化研修「日光研修」等の実施、各米空軍基地で行われる障害を持つ方々を対象に行われるスペシャルオリンピクス支援、多摩ヒルズ GC での日米親善ゴルフ大会を始め多くの行事を行ってきました。



Everyone is smiling and happy to see each other again

時の情勢や政権による多少の浮き沈みはあるものの、現在、そして将来の我が国の安全と繁栄を確保するうえで、日米同盟が不可欠です。創設当時の先輩方の先見の明と、これまで 30 年にわたり活動を続けてきた会員皆様の努力と現在もその努力を継承し、発展させている役員、関係者の献身的な尽力に深く感謝と敬意を表します。大輪の花は、日々の手入れなくしては花開かず。同盟関係の強化は、園芸に例えられるごとく、根気強い継続努力の結果といえます。

JAAGA の活動を続ける中で、継続性から生まれる人と人の結びつきの強さ、その強さが同盟に裨益する効果の甚大さに気付かされました。昨年の訪米の機会には、JAAGA 創設当時の在日米軍司令官兼第 5 空軍司令官（以下、「元司令官」）であるラルフ・エバハート退役大将からご自宅招待を含む大歓待を受けしました。自宅の各所に飾られた日本を象徴する品々の多さからも日本愛を痛感しました。現役当時から一貫して日本、そして航空自衛隊を支援してこられたことは米軍の中でも広く知られています。他にもワシントン DC でお会いした、ブルース・ライト元司令官は、在職当時に航空総隊司令部の横田移転構想について、将来を見据えて、吉田航空幕僚長と膝詰めの議論をし、今日の横田基地における日米共同の礎を築かれました。バートン・フィールド元司令官は、近年におけるわが国最大の危機である東日本大震災に際し、「友だち作戦」を指揮し、日米同盟の絆の強さを実証したばかりか、多くの国民に同盟の重要性を示されました。第 5 空軍副司令官として勤務をしたジョン・レイモンド退役大将は、初代米宇宙軍作戦部長（司令官）として、航空自衛隊の宇宙部隊創設と発展を協力に後押しされました。現太平洋空軍司令官であるケビン・シュナイダー元司令官は、長い日本勤務を通じ、日本のよき理解者として不安定なアジア情勢に対処されています。JAAGA は、勿論、先に述べた元司令官のみならず多くの在日米軍関係者との交流や活動を通じて、真に魂の通い合う友としての関係を築き上げ、日米同盟の強化に寄与してきたもの確信します。紛うことなく、30 年の活動の上に、現在の同盟関係が成り立っています。今後、この巨人の肩の上に立ち、更なる高みへと発展することでしょう。

また、第 5 空軍司令官＝在日米軍司令官という幸甚にも恵まれ、米国内では在日米軍勤務者としての枠組みの活動も展開されています。更なる高みのみならず、空軍種間にとらわれない広がりという発展も見せています。航空自衛隊が今後、航空宇宙自衛隊へと拡大してゆくことにより、宇宙分野でも一層の拡大が期待されます。

JAAGA は、米軍を支援するために組織された組織です。しかし、その活動は、人と人のつながりにより、良き日本理解者を得ることで、結果的に航空自衛隊、日米同盟に大きな力をもたらしているのです。これまでの、そして今日の JAAGA の活動が、50 年後、100 年後に大樹の根となり、幹となり、嵐にもるがない日米同盟へと続くことを祈念いたします。



Gen（Ret）Schwartz



Gen Wilsbach receives a plaque of HONORARY MEMBER from President Marumo



Lt Gen Kosinski receives a plaque of HONORARY MEMBER from President Marumo



Gen Schneider（center）

令和７年度日米優秀隊員表彰
Commendation for Koku-Jieitai & USAF Brilliant Soldier in FY 2025

令和８年２月下旬～３月上旬にかけて、令和７年度JAAGA 日米隊員表彰式が、三沢、横田及び那覇の各基地において行われた。本表彰行事は、空自と米空軍の友好親善と相互理解に貢献した隊員を表彰することを目的として平成 10 年度から行われているものであり、今回が 28 回目となる。これまでの被表彰者数は総計 206 名（空自 123 名、米空軍 83 名）を数える。

今回（令和７年度）は、３基地すべてで祝賀会食を含む全行程の行事を執り行った。表彰式では、丸茂会長の挨拶に続いて日米の被表彰者に表彰状と記念楯が授与され、それぞれの功績が称えられた。各地区における表彰行事の概要については、以下のとおり。

（伊藤理事記）

三沢地区表彰式
(*Misawa AB*)

２月 26 日（木）、令和７年度三沢地区 JAAGA 表彰行事が三沢基地米空軍ミサワクラブ（旧 NCO クラブ）において実施された。

三沢における表彰行事は、主催者となる丸茂会長、池添三沢支部長、山本三沢支部事務局長をはじめ JAAGA メンバー５名のほか、航空自衛隊から北部航空方面隊司令官 船倉慶太空将、第３航空団司令兼三沢基地司令 藤田輝章空将補、米空軍から第 35 戦闘航空団司令官 ポール・デイヴィッドソン大佐（Col Paul Davidson）、第 35 戦闘航空団先任下士官 ディヴィッド・ナヘラ最先任上級曹長（CMSgt David Najera）をはじめ日米双方約 30 名が出席された。また、三沢市防衛協会会長 相場 博氏はじめ三沢基地周辺協力団体の皆様のご臨席を賜り、総勢約 40 名が参加する盛大な式典となった。



受賞者（ウーレヴァー少尉）（当時）と丸茂会長茂会長

令和７年度の米空軍被表彰者は、第 35 戦闘航空団司令官業務企画室長 エリカ・ウーレヴァー少尉（2nd Lt Ericka A. Woolever）（当時）であり、航空自衛隊隊員等に対する「フレンドシップ・ツアー」プログラムを刷新したほか、三沢基地最大の二国間地域イベント「アメリカンデー 2025」の主任企画者として卓越したリーダーシップを発揮する等の功績が高く評価されての受賞となった。



受賞者（白石３曹）と丸茂会長

また、航空自衛隊被表彰者は、北部航空警戒管制団北部防空管制群防空管制隊白石華咲希３等空曹であり、米空軍第 610 管制隊と防空管制隊間の友好親善交流行事を企画・実行し部隊間の信頼醸成に貢献したほか、米太平洋空軍司令官他の部隊訪問に際し、状況説明資料の作成や通訳業務を実施し、円滑な部隊訪問に寄与する等の功績が高く評価されての受賞となった。



三沢地区集合写真

表彰式は、北部航空音楽隊による日米両国国歌の演奏から始まり、冒頭の丸茂会長の挨拶では、国際環境が急激に厳しさを増し日米同盟の重要性が益々重要になる中で、黙々と任務を果たしている日米両部隊への敬意と感謝、本表彰事業の意義、被表彰者への祝意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に三沢基地の積極的なご協力、ご支援に対するお礼が述べられた。挨拶に続いて丸茂会長から日米の被表彰者それぞれに表彰状と記念楯が授与され、その功績が称えられた。

来賓祝辞においては、藤田基地司令から、被表彰者に対するお祝いと感謝の言葉とともに、「三沢基地は様々なイベントを通じて、日米隊員間の融和、親睦、相互理解を深め、日米両国の関係を強化している。今回表彰されたお二人を模範とし、今後もより一層強固な友情を築いて参りたい」旨の決意が述べられた。また、デイヴィッドソン司令官からは、被表彰者の活躍を讃え今後とも日米友好に尽力されることを期待する旨の発言があり、JAAGA が本表彰行事のほか、スペシャル・オリンピックスをはじめ日米の様々な活動を支援していることに対し感謝の意が述べられた。

表彰式後の祝賀会食においては、三沢つばさ会会長山本方之氏の開会のご発声で和やかな食事会が始まり、三沢基地における活発な日米交流行事の話題などで祝宴が盛り上がった。会食の終盤には日米の被表彰者から挨拶があり、緊張した面持ちで、今回の受賞を光栄に思うこと、また、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も日米の友好関係強化につながる活動を続けていきたいとの抱負が述べられた。

会食の最後は、JAAGA 三沢支部長 池添孝史氏による英語のスピーチで締めくくられ、すべての行事が盛会のうちに終了した。

本行事の開催にあたって多大なるご尽力をいただいた日米三沢基地の関係各位に対して心から感謝申し上げます。（島津理事記）

関東地区表彰式
(*Yokota AB*)

3 月 10 日（火）、令和 7 年度関東地区 JAAGA 表彰行事が横田基地において執り行われた。JAAGA からは丸茂会長のほか理事 3 名、航空自衛隊からは航空総隊司令官谷嶋正仁空将、作戦運用隊司令兼横田基地司令細川裕一 1 等空佐、第 2 輸送航空隊司令二木裕和 1 等空佐、作戦情報隊副司令平光康紀 1 等空佐、宇宙作戦群指揮所運用隊長阿式俊英 1 等空佐など約 30 名、米軍からは第 374 空輸航空団司令官マックエルハニー大佐を含む約 10 名が参加した。

令和 7 年度の米空軍側の受賞者は第 374 空輸航空団のシドニー・ウッドハウス上等空兵（SrA Sidney Woodhouse）であり、横田基地ハロウィン祭りへの児童養護施設の参加支援、地元清掃ボランティアへの主導的な参画、農薬及びプラスチック不使用の地元農業への参画、寄贈の車椅子を障害者に届ける活動等が、地域住民の理解促進による基地の安定的使用に繋がるものとして高く評価された。



受賞者（池田 1 曹）と
丸茂会長

航空自衛隊横田基地からの一人目の受賞者は作戦情報隊の池田綾子 1 等空曹であり、2024 年度の横田基地准曹会会長として、サクラ・スプリング・フェスティバルでの交流支援、スペシャル・オリンピックスでの自衛隊


関東地区集合写真

ボランティアの割り当て、日米隊員と家族による清掃活動への参画、航空自衛隊納涼祭への米軍関係者の案内等における強力なリーダーシップが高く評価された。


受賞者（平沼２曹）と丸茂会長

二人目は、作戦システム運用隊の平沼知樹２等空曹であり、横田基地下士官グループでの各種イベントの企画立案への参画、フレンドシップ・フェスティバルでのボランティア活動への参画、米空軍専門能力開発センター主催の下級下士官基礎コースでの航空自衛隊の活動紹介等が相互理解の促進に貢献したとして高く評価された。


受賞者（貝塚２曹）と丸茂会長

航空自衛隊入間基地からは、第２輸送航空隊の貝塚茂樹２等空曹が選出され、入間基地への第374空輸航空団の招待行事の企画立案と実行、スペシャル・オリンピックスでの大会運営の支援、第374空輸航空団の研修参加、米軍人とその家族との交流企画等により、部隊レベル及び個人レベルでの信頼関係構築に大きく貢献したことが高く評価された。


受賞者（田口１曹）と丸茂会長

航空自衛隊府中基地からは、宇宙作戦群の田口嘉大１等空曹が選出され、在日米空軍服務指導下士官候補者シンポジウムでの相互理解の推進役、タリスマンセイバー25での宇宙作戦に係る共同対処能力の向上、環太平洋地域若年下士官リーダーシップフォーラムでの意見交換の促進役等により、相互理解の促進に貢献したことが高く評価された。

表彰式は、冒頭の丸茂会長の挨拶で始まり、中東において命を落とした米軍兵士とその家族に対する哀悼の意を表した後、日米同盟の重要性、日米両部隊への敬意と感謝、受賞者への祝意と感謝、そして本行事に対する横田基地の積極的な支援に対する謝意を述べた。

続いて、丸茂会長から日米の受賞者それぞれに表彰状と記念楯が授与され、その功績が称えられた。なお、米側受賞者のウッドハウス上等空兵は都合により不参加となったため、上司であるキャメロン・ブラックバーン軍曹が代理で参加し受賞挨拶を代読した。


受賞者代理（ブラックバーン軍曹）と丸茂会長

来賓祝辞では、細川横田基地司令から受賞者に対するお祝いと感謝の言葉とともに、これまで以上の日米の「絆」の深化と「阿吽の呼吸」による対応の必要性を述べられた。また、演習中にも拘わらず出席したマックエルハニー司令官からは、受賞者の貢献と奉仕の精神が自由で開かれたインド太平洋地域の推進に極めて重要との認識が述べられ、より良い「ワン・コミュニティー（One Community）」のための受賞者の活動を讃えるとともに、JAAGA の活動への感謝の意が表された。

表彰式後の祝賀会食は、航空総隊司令官の挨拶に始まり、和やかな雰囲気の中で横田基地における日米交流行事の話題などで会話が盛り上がった。会食の終盤に日本側の受賞者４名から挨拶が行われ、全員が英語で見事な挨拶を行い、参加者から賞賛の拍手を浴びた。

会食の最後に、JAAGA 丸茂会長が参加者全員に対する感謝を述べるとともに、今年は JAAGA が創設 30 周年を迎えることを紹介した。本行事の開催にあたり、多大なるご尽力をいただいた関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。（増田理事記）

沖縄地区表彰式
(*Naha AB*)

３月４日（水）、令和７年度沖縄地区 JAAGA 表彰行事が航空自衛隊那覇基地で実施された。

那覇基地における表彰行事は、主催者たる丸茂会長、丸野沖縄支部長をはじめ JAAGA 会員７名のほか、航空自衛隊から南西航空方面隊司令官寺﨑隆行空将、第９航空団司令兼那覇基地司令霜田豊英空将補、嘉手納基地からは第 18 航空団第 18 任務支援群司令官ロビンソン・R・マタ空軍大佐（Col Robinson R. Mata）をはじめ、日米双方約 40 名にご臨席いただいた。

令和７年度の航空自衛隊側被表彰者は、那覇救難隊



那覇地区集合写真

中尾和宏准空尉であり、航空救難員として日米共同訓練に数多く参加し、捜索救助に関する日米共同対処能力を向上させる等の功績が高く評価されての受賞となった。



受賞者（中尾准尉）と丸茂会長

また、米空軍側被表彰者は、第18航空団第718部隊支援中隊（718th Force Support Squadron, Kadena Air Base）ジャクリン・キャンシーノ２等軍曹（SSgt Jacqueline Cancino）であり、遺体安置業務専門家として、沖縄における遺体安置任務における相互運用性と卓越した運用を強化する等の功績が高く評価されての表彰となった。



受賞者（キャンシーノ２等軍曹）と丸茂会長

表彰式は、恒例となった合同庁舎３階エントランス・ホールにおいて、厳かに実施された。

なお、第18航空団司令官ギャレモア准将（Brig Gen John B. Gallemore）は所用により出席がかなわなかったが、マタ第18任務支援群司令官が参加されるとともに、中尾准空尉は奥様を、キャンシーノ２等軍曹は旦那様を伴われ、表彰式に参加された。

表彰式は、南西航空音楽隊員５名の管楽器による日米国歌の演奏から始まり、主催者として丸茂会長が挨拶した。挨拶冒頭、中東域における作戦で命を落とされた米軍隊員及びその家族に対する哀悼の意が述べられた。続いて、国際環境が一層厳しさを増し、日米同盟がますます重要となる中で、黙々と任務を果たしている日米両部隊への敬意と感謝、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地の積極的なご協力、ご支援への謝意が述べられた。挨拶に続き、丸茂会長から日米双方の被表彰者に表彰状を、その配偶者に記念楯を授与し、被表彰者の功績を讃えた。

次に、来賓として霜田那覇基地司令並びに米空軍を代表してマタ任務支援群司令官から祝辞が述べられた。両名からは、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、航空自衛隊と米空軍との間の絆強化の重要性、そして被表彰者の活動が仲間意識と団結をより一層強めていることについて、被表彰者への祝意と敬意が示された。

表彰式後の祝賀会は、丸野支部長の挨拶で始まり、出席者は那覇基地給養班が丹精込めて調理したカレーライスに舌鼓を打ちながら、終始和気あいあいとした雰囲気の中で受賞者を称え合った。最後に、那覇救難隊長伊藤公士２等空佐から締めの言葉をいただき、すべての行事は盛会のうちに終了した。

本行事の実施にあたり、ご尽力いただいた那覇基地及び嘉手納基地の関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

（荒木（哲）理事記）

令和7年度日米優秀隊員表彰（受賞者及び功績の概要）

2025 JAAGA AWARD Winner

	部隊	受賞者	功績の概要
航空自衛隊 JASDF	第３航空団 （三沢） Misawa	 SSgt SHIRAISHI Kazuki ３等空曹　白石　華咲希	運用訓練班員として、米空軍第 610 管制隊と防空管制隊間の友好親善交流行事の企画及び実行に従事し部隊間の信頼醸成に貢献したほか、米太平洋空軍司令官他の部隊訪問に際し、状況説明資料の作成及び通訳業務を実施し円滑な部隊訪問に寄与 As a member of the Operation and Training Unit, Staff Sergeant SHIRAISHI demonstrated outstanding dedication in planning and executing friendship exchange programs between 610th Air Control Flight and Air Defense and Control Squadron, significantly contributing to the cultivation of mutual trust. Furthermore, during PACAF Commanders' visit to Misawa Air Base stationed units, she prepared briefing materials and conducted interpretation, playing a vital role in ensuring their smooth visit.
	作戦情報隊 （横田） Yokota	 MSgt IKEDA Ryoko １等空曹　池田　綾子	2024 年度の横田基地准曹会会長として、横田基地サクラ・スプリング・フェスティバルにおける日米交流の支援、スペシャル・オリンピックスにおける自衛隊ボランティアの適切な割り当て、日米の隊員と家族による基地周辺の清掃活動、航空自衛隊納涼祭への米軍関係者の案内等に強力なリーダーシップを発揮し、信頼関係の構築に貢献した。 Master Sergeant IKEDA, as the president of the Yokota Air Base Non-Commissioned Officers' Association, has contributed by supporting U.S.-Japan exchanges through Sakura Spring Festival, properly allocating volunteers for the Special Olympics, and organizing the cleanup activity around the base with U.S. and Japanese military personnel and their families, and also guiding U.S. military personnel to summer festivals at JASDF bases.
	作戦システム 運用隊 （横田） Yokota	 TSgt HIRANUMA Tomoki ２等空曹　平沼　知樹	横田基地下士官グループにおける各種イベントの企画立案への参画、フレンドシップ・フェスティバルにおけるボランティア活動、米空軍専門能力開発センター主催の下級下士官基礎コースにおける航空自衛隊の歴史とリーダーシップ及び有償援助調達の重要性の紹介実施等により、信頼関係の構築に貢献した。 Technical Sergeant HIRANUMA has contributed by participating in the activities of Yokota Air Base Non-Commissioned Officers' Group and planning various events, volunteering at the Friendship Festival, and also introducing the history and leadership of JASDF and the importance of Foreign Military Sales at the Junior Enlisted Foundation Course conducted by the U.S. Air Force Professional Development Center.
	第２輸送 航空隊 （入間） Iruma	 TSgt KAIZUKA Sigeki ２等空曹　貝塚　茂樹	入間基地への第 374 空輸航空団の招待行事の企画立案と実行、スペシャル・オリンピックスにおける大会運営の支援、第 374 空輸航空団の研修への参加、米軍人とその家族との間のホームパーティの企画等により、部隊レベル及び個人レベルでの信頼関係の構築に貢献した。 Technical Sergeant KAIZUKA has contributed by planning and executing the 374th Airlift Wing's invitational event in Iruma Air Base including a tour of the aircraft and maintenance work, as well as the Shubudai Memorial Hall, supporting the management of the Special Olympics, and participating in training conducted by the 374th Airlift Wing, also planning a home party for U.S. military personnel and their families.
	宇宙作戦群 （府中） Fuchu	 MSgt TAGUCHI Yoshihiro １等空曹　田口　嘉大	在日米空軍服務指導下士官候補者シンポジウムにおける日米間の相互理解の促進役、タリスマンセイバー 25 における宇宙作戦における共同対処能力の向上、環太平洋地域若年下士官リーダーシップフォーラムにおける日米間の意見交換の促進役等により、信頼関係の構築に貢献した。 Master Sergeant TAGUCHI has deepen understanding between Koku-Jieitai and the U.S. Air Force personnel in First Sergeant Symposium of the U.S. Air Force in Japan, contributed to strengthening the Japan-U.S. relations through joint training in Talisman Saber 25, also facilitated opinion exchanges between Japan and the United States in the Inter-Pacific Junior Enlisted Leaders' Forum.
	航空救難団 （那覇） Naha	 WO NAKAO Kazuhiro 准空尉　中尾　和宏	救難員として、2016 年のコープ・エンジェル及びキーン・ソードにおいて企画調整した米空軍 MC-130 からの空自隊員落下傘降下を初めて実現させるとともに 2025 年にはレスキュー・フラッグ・オキナワにおいて潜水技術を米軍に展示指導を実施し技術向上に貢献され、捜索救助に関する日米共同対処能力の向上に貢献 As a resque member, he has planned and coordinated the first parachute drop of JASDF personnel from a U.S. Air Force MC-130 at Cope Angel and Keen Sword in 2016, and in 2025, you demonstrated and trained U.S. military personnel in diving at Rescue Flag Okinawa, contributing to the improvement of those skills.

米空軍	第 35 戦闘航空団（三沢）Misawa	 1st Lt Aricka A. Woolever 中尉 エリカ A ウーレヴァー	広報士官として、航空自衛隊隊員等に対する「フレンドシップ・ツアー」プログラムを刷新し米空軍の作戦や文化を学ぶ機会を提供したほか、三沢基地最大の二国間地域イベント「アメリカンデー 2025」の主任企画者として卓越したリーダーシップを発揮し日米同盟の強化に貢献 As a Public Affair officer, Lt Woolever made significant efforts to revitalize the Misawa Friendship Tour program and provided opportunities for the members of Koku-Jieitai to learn about U.S. Air Force operations and culture. Furthermore, as a lead planner for the 2025 American Day, the largest bilateral community event in Misawa Air Base, she demonstrated extraordinary leadership, contributing to fostering the US-Japan alliance.
USAF	第 374 空輸航空団（横田）Yokota	 SrA Sidney Woodhouse 上等空兵 シドニー・ウッドハウス	横田基地ハロウィン祭りへの児童養護施設の参加支援、清掃ボランティアへの主導的な参画、農薬及びプラスチック不使用の地元農業への参画、寄贈された車椅子を障害者に届ける活動への参画等により、基地に対する地域住民の理解を促進し基地の安定的使用に貢献した。 Senior Airman Woodhouse has contributed greatly to promoting understanding of Yokota Air Base among local residents and contribute to the stable use of the base by coordinating a program where children from a local Group Home participated in the Yokota Air Base Halloween Festival, taking the lead in volunteer clean-up activities, and helping local farmers farm without pesticides or plastics, and participating in activities to deliver donated wheelchairs to people with disabilities.
	第 18 航空団（嘉手納）Kadena	 SSgt Jacqueline Cancino 2 等軍曹 ジャクリン・キャンシーノ	遺体安置業務専門家として、海兵隊と空軍の死亡管理プロセスを整合させる二国間および共同部隊訓練を複数回主導し、航空自衛隊員と海兵隊部隊に知識と教義を付与する等、航空自衛隊と米空軍との相互理解の増進および相互運用能力の向上に献身的に尽力 As the Mortuary Affairs Subject Matter Expert, she has led multiple bilateral and joint training sessions that aligned Marine and Air Force fatality management processes that equipped Koku-Jieitai personnel and Marine units with knowledge and doctrine. All her dedication contributed to the notable advancement of mutual understanding and to the significant improvement of inter-operability between the Koku-Jieitai and the U.S. Air Force.

フィールド大将訪日
Welcome to Japan, Gen Field!

【来日された名誉会員との交流（意見交換会）】

令和 8 年 7 月 15 日（水）、JAAGA 創設 30 周年記念講演のため来日された名誉会員 Field 将軍（Lt Gen（Ret）Burton M. Field、在日米軍司令官兼ねて第 5 空軍司令官：在職期間 2010.10.23 ～ 2012.7.24）を有楽町ガード下にある酒席「新日の基」に招待して、前原副会長をはじめとする JAAGA 訪米団関係者と共に夕食を囲みながら意見交換会を実施した。

現在 Field 将軍は、約 12 万人の会員で構成された米空軍・宇宙軍協会（Air & Space Forces Association）の会長兼最高経営責任者（CEO）であり、空軍、宇宙軍への提言、教育、支援という使命を担っている。前日 7 月 14 日には 30 周年記念講演で、「東日本大震災におけるトモダチ作戦の記憶と教訓」と題して、トモダチ作戦を通じて得られた教訓や感動的なエピソードが語られ、本経験が日米同盟をいかに強化したかが示された。

夕食会では終始和やかに笑顔で話され、大好きな日本の名勝や、反対に日本人が好む米国内の州と日本との関係も説明され、フィールド将軍が日本で過ごされた思い出が溢れんばかりに語られた。

Field 将軍は、エスコートを担った山田理事に直接、本会を開くお店として、在職期間中に知った大好きなお店「新日の基」をリクエストされた。日本のレトロな雰囲気と最高においしいお料理、そしてなんといっても店主である Andy さんのお人柄に魅了されたとのこと。

創設 30 年の節目の年に、このように日米同盟をさらなる高みへ上げるべく名誉会員が来日して意見交換できたことは貴重な機会になったと確信する。毎年 JAAGA は、訪米団を編成して、米空軍・宇宙軍協会が主催する航空宇宙サイバーカンファレンス（Air, Space & Cyber Conference）への参加時に名誉会員方々と意見交換をすることは重要なことであるし、さらに本会のように日本の地で、そして日本周辺の安全保障環境の中で意見交換することは、日米双方を理解する上でも大切であると実感する。　　（上ノ谷副理事長記）





嘉手納基地研修
JAAGA Member's Visit of Kadena AB and Naha AB

【全般】

２月 18 日（水）から 19 日（木）の２日間、JAAGA 会員による航空自衛隊那覇基地及び米空軍嘉手納基地研修を実施し、任務及び主要装備品等についての理解を深めるとともに、日米指揮官等との懇談等を通じて日米安全保障体制の重要性を再認識するとともに、友好親善を図った。研修団には、団長として永岩俊道正会員、副団長として大山哲夫個人賛助会員及び森直樹団体賛助会員を迎え、研修員 26 名（正会員３名、個人賛助会員 14 名、法人賛助会員９名）と同行理事４名（引田、今瀬、吹田及び浅井）の総勢 30 名が参加した。

日米の関係部隊の周到な準備ときめ細やかな対応、指揮官自らの概況説明や質疑応答などを通じ、南西域における航空自衛隊及び米空軍の任務概要を理解するとともに、軍事情勢の厳しさと緊張状態を実感した。加えて米軍プレゼンスの意義と重要性及び緊密な日米連携の実態を確認でき、非常に有意義な研修となった。今回の研修を支援していただいた関係者への多大な感謝を申し上げたい。

研修第１日目

【入間基地集合・結団式】

穏やかな陽光の中参加者が続々と、白い息を吐きつつ、入間基地稲荷山門に集結し、受付を済ませると、中部航空警戒管制団（以下「中警団」という。）から車両輸送支援を受け、入間基地空輸ターミナルに移動した。到着すると、ターミナル前にて中部航空方面隊（以下「中空」という。）司令官稲月秀正空将と中警団副司令諏訪昇男１等空佐の出迎えを頂いた。団長及び副団長は、ターミナル１階特別室において中空司令官及び中警団副司令との懇談後、ターミナル２階において結団式を行い研修開始となった。搭乗手続き実施後、C-2 輸送機に搭乗、予定通り入間基地を離陸し、一路那覇基地に向かった。

【那覇基地への空路】

研修者は、隊列を組んで済々と C-2 輸送機に搭乗。機内空間の大きさに驚きつつも、各人座席につき、安全確保に関する説明を受けた後、離陸した。大半の研修員は、C-2 への登場は初めてのようで、C-130 への搭乗経験がある研修者からは、機内の静寂さに驚いたとのコメントがあった。

【嘉手納基地への移動】

那覇基地着陸後、第９航空団（以下「9 空団」という。）司令霜田豊英空将補の出迎えを受けた後、隊員食堂に移動し体験喫食となった。食堂の一角に専用スペースを設けていただき、思い思いに食事を楽しんでいたようである。昼食後、９空団の車両支援により、嘉手納基地へ移動した。約１時間の車中では、各人の自己紹介と研修への抱負を述べるなど、移動の時間を忘れるひと時であった。

【嘉手納基地研修】

嘉手納基地到着後、特にトラブルもなく入門手続きを終了し、米軍のバスに乗り換え、いよいよ嘉手納基地の中へ。１時間近くかけ基地内を１周した。車窓からであったが、駐機している数多くの米空軍機と米海軍機を見ることができた。RC-135 や MC-130 のようななかなか見ることのできない機種の姿もうかがえた。また、米本土からローテーションで暫定配備されている F-35 と F-16 については、停車したうえでの説明を受けた。その後、車両は第 18 戦闘航空団（以下「18FW」という。）庁舎へ。研修団到着時には、司令官ジョン・B・ギャレモア准将（Brig Gen John B. Gallemore, Commander of 18th Fighter Wing）が参加者一人一人と握手をしての出迎えをいただいた。





【嘉手納基地及び 18FW 概況説明】

ギャレモア司令官から、研修団歓迎の挨拶に続いて、嘉手納基地及び 18FW についての概況説明を受けた。まず短いビデオを見た後、最近の中国軍の活動域拡大を具体的に表示したうえで、18FW の任務として抑止の重要性について説明された。嘉手納基地については、太平洋空軍における最大の基地であり、中国にいかに近いかを強調し、運用する航空機の機種が非常に多いことを大きな特徴としてあげられた。次に再び地域と

の交流に関するビデオを見た後、アメリカフェスト、嘉手納スペシャルオリンピックや沖縄マラソンなど具体的な活動を列挙し、同盟のみではなく良き隣人として、地元の理解と信頼向上に努めていると強調された。基地内にあるレストラン「チリーズ（Chili's Kadena Grill & Bar）」は世界トップクラスと紹介されたうえで、今回研修員が訪れる機会がないと聞き、大変残念がっていただいた。



【MQ-9 無人機研修】

格納庫に移動し、MQ-9 無人機の実機を見ながらの機体、操縦装置や搭載カメラの説明を受けた。特に、搭載カメラについては実際に、遠距離で肉眼では認識できないものが、カメラによって鮮明に映し出される様に研究員は驚きを隠せなかった。





【第 18 戦闘航空団年間アワード表彰式】

今回の研修では、当日夜行われた第 18 戦闘航空団年間アワード表彰式（18th Wing Annual Awards Ceremony）への参加が組み込まれた。研修と表彰式が同日であったことからギャレモア司令官自らの発案で、研修員の参加が決まったものである。この表彰式は、2025 年に 18 戦闘航空団所属員を佐官級将校、尉官級将校、上級下士官、曹級下士官、士級下士官、民間人従業員などのカテゴリーごとに、すでに選ばれている候補者の中から受賞者が選出される。司令官入場の後、国家独唱、祈祷、献杯、夕食会と進み、いよいよ授賞式が開始されると、部門ごと受賞者が発表され、司令官自ら舞台上で記念品を渡し祝福していた。受賞者が出た部隊は大盛り上がりであり、研修員なかなか経験できない米空軍部隊の雰囲気を味わえた大変貴重な体験であった。この後、研修員は再びバスに乗り込み那覇市内のホテルに投宿した。

【南西航空方面隊概要説明】

翌朝那覇基地では、バスを降車する研修員を南西航空方面隊（以下「南西空」という。）司令官寺崎隆行空将と霜田団司令に迎えていただき、ブリーフィング会場へと移動した。寺崎司令官自ら、霜田団司令同席のうえ南西空概要説明が実施された。まず那覇基地を概観したうえで、部隊の編成、地理的状況分かりやすく説明した後、中国軍航空機の活動の変遷や空母の活動状況、中露共同飛行などの事象を説明し、南西空の取り組みとして、他自衛隊との連携による対処能力の向上、米軍との連携による対処能力の向上、急患患者／災害対応及び運用基盤の確保の 4 点を強調された。その後研修員から活発な質問があったが、一つ一つ丁寧な回答をいただいた。



【主要装備品見学】

格納庫に移動し、団長の号令で整列し説明者に礼をして、E-2D 実機を前にしての説明が開始された。研修員の多数が初めて E-2D を見るとのことで、みな興味津々で説明に聞きっていた。性能の概要や任務、E-2C との違いなど分かりやすい説明を受けることができた。続いて F-15 の格納庫に移動し、各研修員にヘッドフォンが配られ、説明者のマイクからの声による概要説明を受けた。その後研修員一人一人が F-15 のコックピットに座っての説明を受けることができた。最後も団長の掛け声で礼をして、貴重な装備品見学の体験を終えた。なお、装備品見学全般にも霜田団司令に随行いただいた。

【昼食会】

寺崎司令官、霜田団司令、南西空司令部幕僚長門田大輔 1 等空佐及び南西高射群司令林育正 1 等空佐などの参加を得て、幹部食堂にて昼食会が実施された。六つのテーブルに自衛隊側参加者 1 名と研修員が配置され、様々な話に花が咲きつつ、食事が進んでいった。

【解散式】

計画では復路も C-2 搭乗予定であったが、急遽 C-130 に変更となった。霜田団司令の見送りを受けつつ離陸後、希望者はコックピット見学をすることができ、貴重な体験ができたわけである。到着後、ターミナルに集合し、団長、副団長からの感想と謝辞が贈られすべての研修は無事終了した。

（浅井理事記）

嘉手納基地研修所感



三菱プレシジョン株式会社　防衛・宇宙事業部
防衛機器営業部　アビオニクス営業課　宮﨑　清一朗

今回初めて JAAGA 嘉手納研修に参加させていただき、米空軍嘉手納基地及び航空自衛隊那覇基地にて JAAGA 会員の皆様と貴重な 2 日間をご一緒させていただきました。基地のある沖縄までの移動では、航空自衛隊入間基地から往路で C-2 輸送機、復路で C-130 輸送機に搭乗させていただきました。

一行は研修一日目に嘉手納基地へ訪問し、日本周辺諸国からの脅威に対抗するための多種多様な装備品をご案内いただいた後、緊迫する国際情勢に対する今後の米空軍の展望に関して第 18 戦闘航空団司令 ジョン・B・ギャレモア空軍准将と議論を交わしました。その後の夕食会では第 18 航空団の年間アワード表彰式にご招待いただき、活気あふれる会場の雰囲気と気さくにお声がけ下さった航空団及びその親族の皆様から、日本を良き隣人として想っていただいている米空軍の温かさを実感しました。

二日目には那覇基地へ伺い、南西航空方面隊司令官 寺崎隆行空将より南西航空方面隊の概要をご説明いただきました。説明で特に際立っていたのが、中国の領空侵犯に対する那覇基地からのスクランブル（緊急発進）です。中国空軍の行動を分析し、領空侵犯へのスクランブル対応をパターン化させることで、有事の際に迅速に行動するための膂力を蓄えておく南西航空方面隊の不屈の精神に感銘を受けました。

今回の研修を通して最も印象的だったことは、長年の共同訓練等で積み上げられた日米空軍の固い絆でした。国際社会に対して多大な影響力を持つ中国やロシア等の国々を周辺に抱える日本において、本土の安全ひいては世界情勢の安定化のために重要なこととは何か。研修でお会いしたギャレモア准将及び寺崎空将のお二人からは「日米の協力」こそが必要不可欠であると強くご説明いただきました。特に近年になって領空侵犯が急速に活発化している中国に対し、実践を想定した日米空軍共同訓練を一層積み重ねているという説明の中で、お互いのパイロットの技術力の高さや戦術の緻密さを讃え合う姿からは、その固い絆と信頼の深さが伺えました。

二日間の研修を通して得た貴重な経験と知見について、私個人の中で消化させるのではなく、広く社内に周知させることで、日本の安全を日夜守り続ける部隊の方々の一助となれるよう、弊社一丸となって一層の支援活動に励みたい所存です。

末筆ではございますが、今回の研修にあたってご尽力いただいた関係者の皆様、お忙しい中にも関わらず温かく迎えてくださった入間基地、那覇基地、嘉手納基地の方々に厚く御礼申し上げます。

支部だより（三沢 AFB、横田 AFB）

JAAGA members participate in the events at U.S. Air Force Bases in Japan

第374空輸航空団　ホリデー・ソーシャル

JAAGA members participate in A Holiday Reception at Yokota AB on Nov 22 '25

令和 7 年 11 月 22 日（土）午後 1 時から横田基地内将校クラブにおいて、第 374 空輸航空団司令官リチャード･F･マックエルハニー大佐（Col Richard F. McElhaney, Commander of Yokota AB）夫妻主催によるホリデー・ソーシャルが開催された。JAAGA からは、井筒副会長、武藤理事長、藤田理事、村田理事及び加藤理事夫妻が参加した。

クリスマスらしい素敵なセーターを着たマックエルハニー大佐ご夫妻の出迎えから始まり、豪華な食事や素敵なバレエ演舞など、各参加者は楽しい午後のひと時を過ごした。

主催者挨拶として、マックエルハニー大佐は、「この大切なホリデーシーズンに皆様をお迎えできますことを大変光



JAAGA officers start new relationship
with Col McElhaney

栄に思います。ホリデーは私たちの人生を共に過ごす友人や家族と祝うための大切な期間です。この時間は一体感、寛容さ、感謝を通じて私たちに団結力をもたらしてくれます。良い時間をお過ごしください」と挨拶された。

今年も特別ゲストとして基地内のバレエ教室に通う可愛いプリマたちが迎えられ、くるみ割り人形の素晴らしい演舞がホリデー・ソーシャルに花を添えた。

マックエルハニー大佐ご夫妻は、プリマ一人ひとりに赤い花を手渡し、素敵な踊りに感謝を述べられた。基地周辺地域の市長、市議会議長をはじめ多くの招待者と基地関係者とのパーティ形式での再会を通じて、地域の方々との交流が日米間の強固な団結ためには重要であることを改めて実感した。

（加藤理事記）

在日米空軍／5空軍　ホリデー・レセプション

USFJ / 5th AF Bilateral Holiday Reception at Yokota AB on Dec 13 '25

令和７年 12 月 13 日（土）18 時より、在日米軍司令官兼５空軍司令官 ジョスト中将（Lt Gen Stephen F. Jost is the Commander, United States Forces, Japan, and Commander, Fifth Air Force）ご夫妻主催による「在日米軍・第５空軍　日米ホリデーレセプション（USFJ/5 AF Bilateral Holiday Reception)」が、ニュー山王ホテルにおいて開催された。

レセプションは、ジョスト中将夫妻の出迎えから始まり、豪華な食事や太平洋空軍バンドの演奏など、参加者は優雅で楽しいひと時を過ごした。

防衛省・自衛隊からは、統合幕僚長内倉空将、航空幕僚長森田空将、統合作戦司令官南雲空将、航空総隊司令官谷嶋空将、航空支援集団司令官安藤空将、中部航空方面隊司令官稲月空将、情報本部長江川海将、防衛装備庁装備官坂梨空将、航空幕僚監部各部長等多数の自衛官、および、外務省からは北米局長等の多数の来賓が参加していた。今年は、会長は参加できなかったが、JAAGA からは、井筒副会長、加藤理事夫妻、藤田理事、村田理事が参加した。

ジョスト司令官は開会にあたり、「平素から在日米軍及び第５空軍に対する協力、支援に感謝します。多数の来賓を迎えホリデー・レセプションが開催できることを光栄に思います。太平洋空軍バンドの演奏を楽しみ良いひと時をお過ごしください。」と挨拶された。

大きなクリスマスツリーにリースなどが装飾されクリスマステーストの雰囲気の中、太平洋空軍バンドによるクリスマスソングの演奏が続けられた。レセプションは大いに盛り上がり、和やかな雰囲気の中で会話も弾み参加者の親睦の輪が広がった。日米関係者はお互いに親交を深め友情を培っていた。

（加藤理事記）



JAAGA officers start new relationship
with Lt Gen Jost and his family

米第5空軍指揮権交代式

5th AF Change of Command Ceremony in Yokota AB

令和８年３月 24 日（火）、米軍横田基地において、米太平洋空軍司令官代理として、同副司令官ローラ・レンダーマン中将（Lt Gen Laura L. Lenderman）執行の下、第５空軍指揮権交代式「Change of Command Ceremony」が行われた。

交代式には、米軍関係者、周辺自治体関係者のほか、航空幕僚長、航空総隊司令官、航空支援集団司令官、幹部学校長、横田基地司令等多数の航空自衛官が参列した。また、JAAGA からは、井筒副会長ご夫妻、武藤理事長、鈴木理事及び加藤理事が参加した。

これまで、第５空軍司令官は、在日米軍司令官と兼任していたが、今回新たに第５空軍司令官が任命され、それぞれ専任の在日米軍司令官ジョスト中将（Lt Gen Stephen F. Jost）と第５空軍司令官ジョエル .L キャリー中将（Lt Gen Joel L. Carey）が誕生する歴史的な式典となった。

交代式では、執行者であるレンダーマン中将が、「今回新たに５空軍司令官を専任で任命することは、米軍の指揮運用体制を向上させる歴史的な進化です。第５空軍および在

日米軍の重要性・責任の増大に伴い、両司令部の指揮体制を再編し、日米間の相互運用性を向上します。」と述べた。

そして、離任するジョスト中将の日米同盟の強化や地域防空システム（RADSI）能力の発展等の功績を讃えるとともに、新任のキャリー中将については、第５空軍司令官として、豊富な経験と見識を有する最適な指揮官であると紹介した。

次に、ジョスト中将は、第５空軍の任務遂行に尽力した関係者への感謝の言葉に続いて、「日米同盟は、私の着任時より強くなった。平和と安定のためには、更なる同盟の強化、統合の進展が必要である。」と述べ、新体制へ力強いエールを送った。

その後、ジョスト中将が、司令官旗をレンダーマン中将へ返還し、続いて新司令官キャリー中将へ指揮官旗が授与されて、第５空軍司令官の指揮権移譲は厳粛裏に終了した。

続いて、新司令官キャリー中将は、４回目となる日本での勤務に対する喜びと参列者への感謝の言葉のあと、「第５空軍の精強な空軍兵士たちを率いて、日本全土の即応態勢、訓練、能力の近代化を強化することを光栄に思い、楽しみにしています。我々は航空自衛隊と共に、太平洋地域での侵略抑止のために航空力強化という重要な取り組みを継続していきます。」と決意を述べた。

式典終了後のレセプションにおいて、井筒副会長は、新司令官キャリー中将と和やかな談笑の中で、新司令官の在沖縄勤務時等における JAAGA に対する協力への謝辞と今後の司令官の活躍を祈念するとともに、引き続いての JAAGA への理解を求めエールを送った。

ジョスト中将は、引き続き在日米軍司令官として、横田基地で勤務され、JAAGA の良き理解者として、ご支援いただけるものと確信している。

新司令官キャリー中将は、米インド太平洋軍の参謀長からの転任であり、我が国周辺情勢に精通している。また、第 18 戦闘航空団司令官（嘉手納基地）を歴任するなど、3 度の日本での勤務経験を有する日本通の指揮官でもある。また、F-15C/D 等、戦闘機を中心に 3,200 時間以上の飛行時間を有する上級操縦士でもある。司令官のご活躍と JAAGA へのご高配に対して大いに期待したい。

（加藤理事記）



JAAGA officers start new relationship
with Lt Gen Carey and his family

米軍三沢基地における F -35配備記念式典

F-35 Fighter Jet deployment ceremony at Misawa AB

４月 24 日（金）、米軍三沢基地では、第 35 戦闘航空団司令官ポール・T. デイビッドソン大佐主催による F －35A 配備記念式典が盛大に開催された。

式典には、第５空軍司令官の他、在日米国大使館から政務担当公使、札幌総領事館主席領事、防衛省からは航空総隊司令官、北部航空方面隊司令官、航空幕僚監部防衛部長をはじめ、三沢市副市長、青森県議会議員、三沢市議会議長、JAAGA 三沢支部長など関係者約 420 名が出席し、「第５世代機」の配備による更なる日米同盟の強化を誓った。

式典は開式の辞から始まり、儀仗隊入場の後、北部航空音楽隊による日米国歌の吹奏、祈り、来賓紹介、第 35 戦闘航空団の歴史紹介、司令官挨拶、政務担当公使および第５空軍司令官の祝辞、テープカットが行われた。

主催者のデイビッドソン大佐は「本日の式典は単なる節目を祝うだけではなく、我々の姿、戦う意義を改めて表明するもの。この戦闘機は航空戦力の未来の象徴であり、同盟の強化と同盟を守るという最も重要な我々の共通のコミットメントを示している」と挨拶した。政務担当公使のクリスト・アリソン氏は「ここに配備される F-35A は、先端技術だけではなく、強固な日米同盟となる証である」と祝辞を述べた。また、第５空軍司令官ジョエル・キャリー中将は「次なる時代を見据える今、この最新鋭機と日本との揺るぎないパートナーシップがあれば、我々は今後何十年にわたって侵略を抑止し、共通の価値観を守り抜く準備ができていると私は確認している」と祝辞を述べた。

式典に先立ち、F-35A 配備記念行事として、前日には夕食懇親会、式典後には F-35A 戦闘機の実機公開・説明や運用地区見学が行なわれた。

３月 28 日現在、三沢基地には４機の F-35A が到着しており、今後数年かけ 48 機が配備される予定である。

（池添三沢支部長記）



Col Paul T. Davidson's greeting as the host



ribbon-cutting ceremony

第50回横田基地日米友好祭開催

50th Yokota Air Base Japan-America Friendship Festival 2026

横田基地日米友好祭 2026 が、5 月 17 日（土）及び 18 日（日）の両日開催された。今年は、50 回の節目の開催であり、かつアメリカ建国 250 周年を記念する特別な友好祭となった。また、両日とも、30 度を超えるような晴天に恵まれ、2 日間で 22 万人を超える来場者で大いに賑わった。

友好祭初日、5 月 17 日（土）午後 1 時から、米空軍横田基地司令官マックエルハニー大佐（Col Richard F. McElhaney, Commander of Yokota A.B.）主催の祝賀レセプションが DV ラウンジ横の格納庫において実施された。米軍関係者、周辺自治体、協力団体、官公署の関係者とともに、航空自衛隊から、稲月航空総隊司令官をはじめ、平井横田基地司令及び近隣部隊長等が招待された。JAAGA からは武藤理事長、増子副理事長、加藤、藤田及び村田渉外理事並びに北村会員が参加し、約 1 時間、料理や懇談を楽しんだ。

レセプションにおいて、マックエルハニー大佐は、日頃からの米軍横田基地に対する協力に対して謝意を述べられると共に、「今回の友好祭は、第 50 回目の記念すべき開催です。また、米国建国 250 周年を記念する特別なものです。皆様の支援、協力があり、開催することができました。」と述べ、「本友好祭は、我々の基地の存在や使命、米国の文化を日本の皆さんに知っていただく良い機会です。このような交流を通じて、多くの方々に『感謝』の気持ちをお伝えしたい。米軍横田基地は、引き続き地域との共存共栄を図るとともに、日米同盟の強化、自由で開かれたインド太平洋地域の平和と繁栄における重要な役割を果たしていきたい。」と挨拶された。会場内では、多くの談笑の輪が広がり日米の友好が一層深められた。最後に、参加者全員で記念撮影を行い、会を締めくくった。

この友好祭では、横田基地所属の C-130、CV-22 の展示飛行に加えて、エプロン地区の航空機展示エリアでは、C-130 をはじめとする各種輸送機の他、F-35A、E-3、P-8 等の米軍機が展示された。また、F-35A、F-15、F-2、C-2、T-4 等の多数の航空自衛隊機も展示され、盛り上げに一役買っていた。

両日とも晴天に恵まれ、展示飛行や航空機の地上展示の他、屋外ステージや格納庫ステージでの音楽演奏や各種パフォーマンス等、多種多様なイベントが行われた。

そして、18 日（日）夜にはフィナーレを飾る花火が打ち上げられ来場者を魅了した。今年で 50 周年を迎えた友好祭は、日米の永続的なパートナーシップを祝い、基地と基地周辺の 8 つの自治体及び地域住民との間の架け橋としての役割を果たすイベントとなった。

（加藤理事記）



JAAGA officers start new relationship
with Col McElhaney and his family

第374空輸航空団司令官にメンドーザ空軍大佐が着任

The 374 Airlift Wing welcomes Col Daniel E. Mendoza as New Commander

7 月 10 日（金）、横田基地において第 5 空軍司令官キャリー中将（Lt Gen Joel L. Carey）の主宰により、第 374 空輸航空団司令官（兼横田基地司令）交代式が行われ、マックエルハニー大佐（Col Richard F. McElhaney）からメンドーザ大佐（Col Daniel E. Mendoza）に指揮権が継承された。来賓として周辺自治体、協力団体、官公署、北関東防衛局の長等、及び航空自衛隊から航空総隊司令官稲月空将、横田基地司令細川空将補をはじめ、横田基地主要幹部、近隣部隊長、基地司令等が招待され、JAAGA からは増子副会長、金古理事長、川口理事が参加し、荘厳な式典を見守った。

格納庫内の会場には、日米両国国旗が掲げられたステージを正面にして、来賓席、第 374 空輸航空団の隊列、基地所在部隊等隊員席が順に配置され、開け放たれた先の駐機場には航空機が展示されていた。

式典では、指揮官旗がマックエルハニー大佐の手からキャリー司令官を経てメンドーザ大佐に手渡され、正式に指揮権が新司令官に移譲された。指揮権交代式は、軍の伝統に深く根差すものであり、指揮権移譲を目に見える形で行い、隷下の軍人がこの瞬間を見届けることに大きな意義があるとされる。

キャリー司令官は、マックエルハニー大佐在任間における広範囲にわたる業務改善の推進と指揮官としてのリーダーシップの功績を賞賛するとともに、新任地（第 18 軍（スコット AFB））での活躍を祈念している旨の言葉を述べられた。

離任にあたりマックエルハニー大佐からは、数々の方から受けた御指導、御支援、日本の地での闘志あふれる隊員とともに任務に付き、無事その任を終えられることへの謝辞が述べられた。

新司令官メンドーザ大佐からは、米空軍において最初の飛行任務地であった横田基地への帰任と再び横田コミュニティで任務に貢献できること、太平洋空軍唯一の輸送航空団の指揮官として勤務できることを励みとして今後の任に当たる旨の決意が表明された。

式典の最後の空軍歌斉唱では、力強く熱唱する司令官の姿が印象的であった。

式典後、メンドーザ大佐主催のレセプションが下士官クラブで実施され、JAAGA 参列者も新指揮官御夫妻に挨拶を行い、新たなパートナーシップのスタートを切ることが出来た。



Lt Gen Joel L. Carey（左）
Col Richard F. McElhaney（中央）
Col Daniel E. Mendoza（右）





374th Airlift Wing Change of Command

令和８年度 JAAGA 事業計画

令和８年度ＪＡＡＧＡ事業計画

事業項目/実施時期		1/四			2/四			3/四			4/四		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
30周年記念事業	記念講演会				☆7/14								
	祝賀会												
日米隊員の激励等	日米共同訓練等参加隊員の激励	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
	日米優秀隊員の表彰(JAAGA AWARD 2026)										←	—	→
	日米隊員の交流活動等激励	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
米空軍軍人の日本研修等支援	防大留学米空軍士官学校学生の研修支援				←	—	—	—	—	→			
	スペシャル・オリンピックスの支援							横田、三沢、嘉手納					
JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流	SPORTEX26											←	→
	指揮官交代行事等への出席	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
	訪米事業						訪米	←	成果等報告会	→			
	在日米空軍各基地との連携の強化	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
	グリーティングカードの送付						←	—	→				
	関係団体との交流(JANAFA、横田基地7クラブ)		JANAFA						JANAFA			横田基地7クラブ	
広報及び広報協力	日米要人等の講演							つばさ会・JAAGA合同講演会					
	米空軍基地等の研修								横田			三沢	
	日米安保等に関する広報活動(米空軍広報記事の会報掲載)	←	—	→				←	—	→			
	会報「JAAGAだより」の発行、配布	←	—	→				←	—	→			
	一般広報(HP運営、パンフレット作成、グッズ贈呈)	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
総会						(郵送)							
運営管理	会勢拡大等(会員管理、会勢拡大)	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
	支部との連携	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
	会員名簿の作成、配布	←	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	→
	役員会(★)及び理事会(☆)	☆	☆	★	☆		★	☆	☆	★	☆	☆	★
	会計監査		(R9. 4)										
その他	創立40周年(2036年)記念行事のための経費積立												

令和８年度 JAAGA 役員

職名		氏名（青：新任）			
会長		井筒　俊司			
副会長		前原　弘昭	武藤　茂樹	増子　豊	
監事		小野　賀三	深沢　英一郎		
理事	理事長	金古　真一			
	副理事長	上ノ谷　寛			
	企画	山田　真史	引田　淳	菊田　哲	鈴木　康彦
	総務	金古　真一	長田　国男	荒木　哲哉	島津　貴治
		西谷　浩一	後藤　雅人	伊藤　顕	増田　友晴

理　　事	渉　　外	岩﨑　仁彦	川口　泰志郎	藤田　信之	村田　圭史
		朝倉　譲	川波　清明	加藤　史彦	野口　英臣
	会　　員	今瀬　信之	西村　弘文	山倉　幸也	野澤　隆一
	広　　報	浅井　玲	池田　五十二	太田　徹	菅原　政弘
	財　　務	上境　賢己	平元　和哉	大岩　卓弥	宮本　裕徳
		樋山　謙一郎			
支部役員	支　部　長	池添　孝史　（三沢）		丸野　礼治　（沖縄）	
	事務局長	山本　親男　（三沢）		相原　弘介　（沖縄）	

令和８年度 JAAGA 役員退任者

職　　名	氏　　名
会　　長	丸茂　吉成
副　会　長	荒木　淳一

会員募集

○ 今期は、関係各位のご努力で、新たに正会員７名、個人賛助会員９名、法人賛助会員３社の合計 16 名３社の入会を得ることができました。

○ 令和８年６月 30 日現在、正会員数 238 名、個人賛助会員数 122 名、団体賛助会員数２団体、法人賛助会員数 33 社となっております。

○ 今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。
推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当理事から連絡させて頂きます。

【入会資格】
正　会　員　：航空自衛隊の OB
賛助会員　：航空自衛隊の OB 以外の方。正会員３名の推薦が必要です。

【連絡先】
郵　　便　：〒 160-0002
東京都新宿区四谷坂町 9-7　ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
日米エアフォース友好協会　会員係
メール　　：membership@jaaga.jp

新入会員紹介

正会員（7 名）

氏　名	住　所	氏　名	住　所	氏　名	住　所
影浦　誠樹	東京都杉並区	樋山　謙一郎	東京都練馬区	細野　英揮	埼玉県入間市
荒木　俊一	佐賀県小城市	西川　慎二	沖縄県豊見城市	大垣　俊喜	東京都品川区
大嶋　善勝	埼玉県所沢市				

個人賛助会員（9 名）

氏　名	住　所	氏　名	住　所	氏　名	住　所
中村　望	青森県八戸市	中町　順	東京都品川区	矢澤　実穂	奈良県奈良市
井下　篤	大阪府和泉市	中村　玉緒	大阪府和泉市	安部　守	東京都大田区
大川　聖人	埼玉県加須市	三田　健二	埼玉県所沢市	堀江　通浩	埼玉県狭山市

法人賛助会員（3 社）

法人名	住　所	代表者	法人名	住　所	代表者
相互物産株式会社	東京都千代田区	小澤　真也	兼松株式会社	東京都千代田区	宮部　佳也
兼松エレクトロニクス株式会社	東京都中央区	渡辺　亮			

賛助会員の皆様へ

日頃から JAAGA 創設の趣旨に賛同され当会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。三沢基地、横田基地、嘉手納基地の研修に参加された賛助会員の皆様には、当方から所感文の寄稿をお願いし、研修の意義のみならず JAAGA の多様性をも噛みしめられるような味わい深い所感を頂戴しているところです。

このような寄稿に加えて、法人、団体、個人の賛助会員の皆様からの投稿も、幅広く募集しております。

テーマは自由、1 件につき JAAGA だより 1 ページ以内程度（400 ～ 2,000 字程度）、写真、図表等を含めていただいても結構です。細部要領等は広報係からご連絡いたします。

JAAGA 入会に至った経緯、企業･団体の概要、個人の活動等の概要、JAAGA に対する要望、航空自衛隊･米空軍に対する貢献活動等、日米現役隊員に対する期待・激励等、思うところを自由にお書きください。

賛助会員の皆様の積極的な投稿を、お待ちしています！

【法人会員の皆様】33 社

株式会社 IHI、株式会社アイ・テック、株式会社石橋オフィスサポート、伊藤忠商事株式会社、株式会社エクシオテック、兼松株式会社、兼松エレクトロニクス株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社シー・キューブド･アイ･システムズ、株式会社 SUBARU、相互物産株式会社、双信商事株式会社、双日株式会社、東京航空計器株式会社、株式会社東芝、日本電気株式会社、日本飛行機株式会社、ノースロップ･グラマン･ジャパン、BAE Systems Japan 合同会社、藤倉航装株式会社、富士通株式会社、株式会社フジワラ、渕上建設工業株式会社、Boeing Japan 株式会社、丸一土地建物株式会社、丸紅エアロスペース株式会社、三菱重工業株式会社、三菱商事株式会社、三菱商事マシナリ株式会社、三菱電機株式会社、三菱プレシジョン株式会社、株式会社武蔵富装、ロッキード マーティン　グローバル　インコーポレーテッド

【団体賛助会員の皆様】2 団体

ハイフライト友の会、三沢市防衛協会

【個人賛助会員の皆様】122 名

投稿募集のご案内

日米エアフォース友好協会（JAAGA）は、お陰様で令和８年７月で創設 30 周年を迎えました。日米同盟の深化進展に伴い、日米両軍の絆はより強固なものに発展してまいりました。「JAAGA だより」も、JAAGA 活動の広報と空自、米空軍のサポーターとしての役割を、より一層充実発展させていきたいと考えています。

ご愛読の皆様（会員に限らず現役隊員の皆様）からの投稿は大歓迎です。また、皆様の忌憚のないご意見やご感想も是非お寄せいただきたくお待ちしています。

【連絡先】（郵便）　〒 160-0002　東京都新宿区四谷坂町９番７号
ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
日米エアフォース友好協会　広報係
（メール） jaagaKH222@outlook.jp

JAAGA グッズの紹介

日米現役の皆さんを応援する「JAAGA だより」を更に多様性に富んだ充実したものにするために、会員の皆様の投稿を募集しています。投稿いただいた方には記念として、「JAAGA グッズ」（男性にはタイピン、女性にはピンブローチ）を謹呈させていただきます。

JAAGA 広報係



編集後記

「JAAGA 創設 30 周年」は、一翼を担う者としてたいへん嬉しくも心が引き締まる思いです。JAAGA はこれまで日米エアフォース相互の信頼と強い絆の関係をベースに、相互の仲立ちとなって「家族ぐるみ」で支えてきました。

「ポケモン」や「ランクル」も 30 周年。その機能や好む人の嗜好によって長く愛されてきましたが、これからも JAAGA は先人の苦労に感謝しつつ、更に発展をさせていく覚悟が必要です。

（I. I）

